

平成29年度
大規模肉用牛経営動向に関する調査報告書

はじめに

この報告書は、株式会社工業市場研究所に委託して実施した平成 29 年度大規模肉用牛経営動向に関する調査の成果を取りまとめたものである。

肉用牛経営においては、もと畜費の上昇により生産費の増加が経営を圧迫している。そのため、増頭による規模拡大や繁殖部門までを取り入れた一貫経営の推進、ブランド化による販売増加や輸出などに取り組む経営体も見られるところである。

このような状況下において、大規模肉用牛肥育経営の生産実態に関するデータが少ないことから、アンケート調査により大規模肉用牛経営の現状を把握するとともに、安定的、効率的な肉用牛経営の推進に資することを目的として調査結果を取りまとめた。

本報告書が肉用牛生産農家及び関係者に広くご活用いただき、今後における何らかの参考になれば幸いである。

最後に、本調査の実施にあたって、ご協力いただいた調査対象農家、関係者各位に深甚の謝意を表す次第である。

平成 30 年 3 月

独立行政法人 農畜産業振興機構

目次

【調査概要】	1
【要約版】	3
【詳細版】	7
1 平成 28 年度の経営概況	7
(1) 飼養頭数	7
(2) 経営土地面積、畜産用地	10
(3) 経営形態	11
(4) 売上高	13
(5) 労働力	15
2 生産費（肥育牛 1 頭当たり）	18
3 もと畜の導入状況	20
(1) 年間もと畜導入状況	20
(2) もと畜を外部から導入する際の重視点	21
4 肥育牛の出荷状況	26
(1) 黒毛和種	26
(2) 交雑種	26
(3) 乳用種	27
(4) 年間の副産物の状況	27
(5) 市場出荷、相対取引の状況	28
5 繁殖雌牛の種付状況	30
6 飼料の給与状況	31
7 敷料の使用状況	33
8 経営に関する取り組み	34
(1) 現在行っている経営努力	34
(2) 今後 3 年間の経営展開の方向性	37

【調査概要】

1 調査目的

- 農林水産省が実施している統計調査（以下、「農林水産統計」という。）においては、200 頭規模以上の階層の肉用牛経営は一括して集計され、大規模経営の生産実態が十分把握されていない。そのため、大規模肉用牛経営の動向を調査し、肉用牛肥育経営の改善を図るための基礎資料の整備を図るものとする。

2 調査対象

- 全国の肉用牛経営者 886 戸を対象に、342 戸から回収（回収率 38.6%）。うち 200 頭以上の有効回答数は 214 戸（回収率 24.2%）。

※200 頭未満も含めた全有効回答数は、302 戸（回収率 34.1%）。

- 標準誤差率は、黒毛和種 3.1%、交雑種 4.1%、乳用種 4.9%である。

【飼養している肉牛の種類】

	計	200 頭以上	200 頭未満
黒毛和種	228 件	118 件	110 件
交雑種	140 件	91 件	49 件
乳用種	76 件	46 件	30 件

※複数種を飼養している調査対象があり、合計値が有効回答数とは異なる。

【地域別の調査対象の分布】

No.	都道府県	戸数 (n)	割合 (%)
1	北海道	51	16.9
2	青森県	12	4.0
3	岩手県	5	1.7
4	宮城県	11	3.6
5	秋田県	2	0.7
6	山形県	9	3.0
7	福島県	6	2.0
8	茨城県	9	3.0
9	栃木県	10	3.3
10	群馬県	11	3.6
11	埼玉県	8	2.6
12	千葉県	4	1.3
13	東京都	1	0.3
14	神奈川県	1	0.3
15	新潟県	6	2.0
16	富山県	0	0.0
17	石川県	0	0.0
18	福井県	1	0.3
19	山梨県	1	0.3
20	長野県	9	3.0
21	岐阜県	4	1.3
22	静岡県	1	0.3
23	愛知県	7	2.3
24	三重県	8	2.6

No.	都道府県	戸数 (n)	割合 (%)
25	滋賀県	2	0.7
26	京都府	2	0.7
27	大阪府	0	0.0
28	兵庫県	8	2.6
29	奈良県	1	0.3
30	和歌山県	0	0.0
31	鳥取県	4	1.3
32	島根県	7	2.3
33	岡山県	7	2.3
34	広島県	9	3.0
35	山口県	3	1.0
36	徳島県	6	2.0
37	香川県	3	1.0
38	愛媛県	0	0.0
39	高知県	0	0.0
40	福岡県	6	2.0
41	佐賀県	5	1.7
42	長崎県	6	2.0
43	熊本県	4	1.3
44	大分県	6	2.0
45	宮崎県	29	9.6
46	鹿児島県	13	4.3
47	沖縄県	4	1.3
	全体	302	100.0

3 調査方法

■アンケート調査（郵送による自記入式）

※調査票を送付前に、電話にて経営状況・飼養品種・頭数の確認、調査協力依頼を行い、了承者に対して調査票を送付した。

4 調査実施期間

■アンケート調査は平成29年10月～12月である。

5 留意事項

■平成28年度の常時飼養頭数規模別にクロス集計を行った。

■報告書中の図表の「全体」は、不明を含む回答者全体を示す。

■報告書中の「n」は、標本数（回答数）を示す（「number」の略）

■小数点以下を四捨五入して算出した場合、合計と合わないことがある。

■基本的に黒毛和種・交雑種・乳用種別に調査を実施した。ただし、1つの経営体が、黒毛和種・交雑種・乳用種の複数の品種を飼養している場合がある。

■前年度との比較については、調査戸数が異なることから、傾向として比較している。

6 調査実施者

■株式会社 工業市場研究所

7 調査項目

調査項目	
1.経営概況	1.飼養頭数(うち黒毛和種、交雑種、乳用種、その他)
	2.経営土地面積、うち耕地計(田、畑、牧草地)・うち畜産用地計(畜舎等、放牧地、採草地)
	3.農業従事者数(うち家族、雇用)
	4.家族労働時間
	5.肉牛関連の常時雇用人数・年間臨時雇用人数
	6.経営形態(畜産専業/兼業の区分、肥育専業経営/繁殖・肥育一貫経営/乳肉複合経営の区分)
	7.農業収入(うち肉用牛経営)
	8.農外収入
2.生産費	1.もと畜費
	2.飼料費(うち流通飼料費、牧草・放牧・採草費)
	3.敷料費
	4.光熱水料及び動力費
	5.その他諸材料費
	6.獣医師料及び医薬品費
	7.賃借料及び料金
	8.物件税及び公課諸負担
	9.建物費(減価償却費、修繕費)
	10.自動車費・農機具費(減価償却費、修繕費)
	11.生産管理費
	12.労働費(うち家族労働費、雇用労働費)
	13.支払利子
	14.支払地代
	15.生産費(自己資本利子・自作地地代は含まない)

調査項目	
3.その他経営実績	1.肥育牛1頭あたり平均粗収益((1)主産物価額+(2)副産物価額) (1)主産物(ア市場出荷・相対取引等の販売手法別販売価格・年間販売頭数・平均枝肉単価、イ販売時月齢、ウ販売時生体重、エ増体重、オ肥育期間) (2)副産物(ア数量、イ価額) (3)肥育牛1頭あたり所得(=平均粗収益-(生産費-家族労働費))
	2.主産物販売先 (1)市場取引と相対取引の比率 (2)相対取引先の比率(ア個人、法人、家畜商、固定客、イ県内・県外)
	3.もと畜の概要(もと畜1頭あたり) (1)取得頭数・価格 (2)肥育開始時平均月齢・生体重 (3)もと畜導入価格を決定する要因 ※交雑種、乳用種については、乳用種初生牛と子牛を分けて調査すること
	4.種付けの状況
	5.飼料の給与状況
	6.敷料の使用状況
4.今後の経営意向等	1.今後の経営意向(規模拡大、現状維持、規模縮小)
	2.規模拡大を実現するに当たっての課題
	3.現状維持または規模縮小の理由

【要約版】

1 平成 28 年度の経営概況

(1) 飼養頭数

■平成 28 年度の肥育牛飼養頭数規模別の経営体数の分布は、「200～300 頭未満」12.6%、「300～500 頭未満」13.6%、「500～1,000 頭未満」19.5%、「1,000～1,500 頭未満」7.0%、「1,500～2,000 頭未満」6.0%、「2,000～3,000 頭未満」5.3%、「3,000 頭以上」7.0%であった。

■品種別肥育牛飼養頭数規模別経営体の割合は、黒毛和種が「200 頭以上」で 51.8%、交雑種が「200 頭以上」で 65.0%、乳用種が「200 頭以上」で 60.5%となった。昨年度との平均頭数の比較では、黒毛和種は昨年度：454.1 頭、今年度：569.0 頭。交雑種は昨年度：712.6 頭、今年度：617.5 頭。乳用種は昨年度：722.9 頭、今年度：693.4 頭となった。

(2) 経営土地面積、畜産用地

■肥育牛飼養頭数規模別の 1 経営体当たりの経営土地面積（平均）は、200 頭以上の経営体が 20.6ha、畜産用地は、200 頭以上の経営体が 29.5ha であった。

(3) 経営形態

■畜産専業・兼業の状況は、200 頭以上の経営体では「畜産専業」70.0%、「複合経営」15.7%、「兼業経営」12.9%であった。

■経営形態は、200 頭以上の経営体では、「肥育専業経営」が 45.4%、「繁殖・肥育一貫経営」が 24.2%、「乳肉複合経営」が 3.9%、「育成・肥育経営」が 20.3%等となっている。200 頭以上の経営体の方が肥育専業経営の割合が高くなっている。

(4) 売上高

■農業経営体全体の売上高は、200 頭以上の経営体では、平均 7 億 7,200 万円となっている。昨年度の 200 頭以上の経営体の平均売上高 7 億 3,100 万円と比較すると、やや増加した。

■肉用牛関連の売上高は、200 頭以上の経営体では、平均 6 億 6,300 万円となっている。昨年度の 200 頭以上の経営体の平均売上高 6 億 600 万円と比較すると、かなりの程度増加した。交雑種や乳用種の価格は下落傾向だったが、黒毛和種が高値で安定したことが背景にあると思われる。

(5) 労働力

- 肉用牛関連に従事する家族労働力は、200 頭以上の経営体では平均 2.8 人であった。
- 肉用牛関連の正社員は、200 頭以上の経営体では平均 7.0 人であった。
- 肉用牛関連の非正社員は、200 頭以上の経営体では平均 3.0 人であった。
- 肉用牛関連作業における 1 日当たりの平均労働時間は、200 頭以上の経営体では 7.8 時間であった。
- 従業員の労働時間の長さについての意識は、全体で「とても長い方だ」が 2.3%、「まあ長い方だ」が 16.8%、「どちらともいえない」が 57.7%、「短い方だ」が 23.2%となり、経営体の規模による大きな差異は見られない。

2 生産費（肥育牛 1 頭あたり）

- 品種別に見ると、200 頭以上の経営体では、黒毛和種 1,133,339 円（昨年度 1,072,392 円）、交雑種 769,714 円（昨年度 740,816 円）、乳用種 560,248 円（昨年度 467,673 円）であり、もと畜費等の高騰の影響を受けて、生産費は上昇した。

<生産費（肥育牛 1 頭あたり）> 200 頭以上の経営体

	もと畜費 (円)	購入飼料費 (円)	牧草・放牧・採草費 (円)	敷料費 (円)	光熱水道力費 (円)	消耗諸材料費 (円)	獣医師料及び医薬品費 (円)	賃借料及び料金 (円)	物件税及び公課諸負担 (円)	建物費 (円)	自動車費、農機具費 (円)	生産管理費 (円)	労働費 (円)	支払利子 (円)	支払地代 (円)	副産物価額 (円)	生産費 (円)
黒毛和種	655,599	256,353	27,305	13,894	18,038	5,747	18,052	10,602	12,533	30,600	13,081	9,431	51,787	13,916	6,046	9,645	1,133,339
交雑種	349,637	265,223	23,599	14,173	10,052	3,204	10,553	9,837	7,182	19,072	9,150	5,916	35,482	8,282	7,170	8,818	769,714
乳用種	223,780	200,851	15,832	18,276	7,269	2,808	9,486	4,861	13,978	12,983	16,266	5,320	21,099	6,227	6,290	5,080	560,248

※生産費は、費用合計から副産物価格を控除した上で、支払利子及び支払地代を加えたものを指す。

3 もと畜の導入状況

- もと畜の年間外部導入頭数は、「黒毛和種」が 274 頭（昨年度 315 頭）、「交雑種（初生牛）」が 451 頭（昨年度 489 頭）、「交雑種（子牛）」が 496 頭（昨年度 619 頭）、「乳用種（初生牛）」が 917 頭（昨年度 723 頭）、「乳用種（子牛）」が 640 頭（昨年度 922 頭）となっている。
- 1 頭当たりの導入価格は、「黒毛和種」が 651,856 円（昨年度 582,972 円）、「交雑種（初生牛）」が 239,250 円（昨年度 211,566 円）、「交雑種（子牛）」が 339,054 円（昨年度 304,670 円）、「乳用種（初生牛）」が 110,061 円（昨年度 59,528 円）、「乳用種（子牛）」が 205,417 円（昨年度 154,544 円）である。近年のもと畜価格の高騰の影響を受けたものと思われる。

■もと畜を外部から導入する際に重視する点は、黒毛和種は、「価格」「血統」「健康状態」「体型の良し悪し」「発育状態」が上位となっている。交雑種（初生牛）は、「健康状態」「血統」「価格」「発育状態」「体型の良し悪し」が上位となっている。交雑種（子牛）は、「健康状態」「価格」「血統」「発育状態」「体型の良し悪し」が上位となっている。乳用種（初生牛）は、「健康状態」「価格」「発育状態」「体型の良し悪し」「体重（重い）」が上位となっている。乳用種（子牛）は、「健康状態」「発育状態」「価格」「体型の良し悪し」が上位となっている。

4 肥育牛の出荷状況

■黒毛和種の年間出荷頭数は、200 頭以上の経営体で平均 534 頭である。枝肉単価の平均は、市場出荷で 2,415 円/kg、相対取引で 2,455 円/kg となっており、市場出荷と相対取引の価格差はほぼ見られない。

■交雑種の年間出荷頭数は、200 頭以上の経営体で平均 577 頭である。枝肉単価の平均は、市場出荷で 1,446 円/kg、相対取引で 1,483 円/kg となっている。黒毛和種と同様に、交雑種でも市場出荷と相対取引では、大きな価格差は生じていない。

■乳用種の年間出荷頭数は、200 頭以上の経営体で平均 908 頭である。枝肉単価の平均は、市場出荷で 993 円/kg、相対取引で 975 円/kg となっている。

■年間の副産物（きゅう肥）の状況は、200 頭以上の経営体で、平均年間販売数量が 1,614 トン、金額が 620 万円となっている。

■市場出荷の実施は、200 頭以上の経営体で平均 4.3 割、相対取引の実施は、平均 5.7 割となっている。大規模な経営体は、安定供給が行いやすいためか、相対取引が多いようである。相対取引の相手先は「法人」が 8 割であり、地域も「県内」が多い。

5 繁殖雌牛の種付状況

■黒毛和種の主な種付方法は「人工授精」であり、受胎率は 74.6%となっている。

■交雑種の主な種付方法は「受精卵移植」であり、受胎率は 71.1%となっている。

■乳用種の主な種付方法は「人工授精」「受精卵移植」であり、受胎率はそれぞれ 52.7%、24.2%となっている。

6 飼料の給与状況

- 給与している飼料は、200 頭以上の経営体では「稲わら」、「成畜用配合飼料」、「とうもろこし」、「ふすま」、「大麦」、「いね科・イタリアンライグラス」等が上位となっている。
- 肥育牛の給与状況（1 日あたりの 1 頭への給与量）を見ると、肥育前期では 7.7kg、肥育中期では 10.0kg、仕上げ期では 9.8kg となっている。

7 敷料の使用状況

- 敷料については、「おが粉」が圧倒的に多く、200 頭以上の経営体の使用率は 87.2%となっている。

8 取り組んでいる経営努力

- 200 頭以上の経営体が現在行っている経営努力は、「低価格な飼料調達に努めている（64.6%）」「従業員の安全を確保（52.6%）」「機械化を積極的に進めている（49.5%）」「もと畜を低コストで導入する（38.5%）」「自社ブランドを確立し、出荷金額を高めている（36.5%）」「低価格の敷料調達に努めている（32.8%）」等が多い。一方で、昨年度と比較すると、昨今の人材不足や働き方を見直す動きの影響からか、「従業員の安全を確保」が 40.0%から 52.6%と伸びている。
- 今後 3 年間の経営展開について、200 頭以上の経営体では「増頭」が 37.4%、「現状維持」が 55.4%であり、「減少」「生産しない」が 7.2%となっている。
- 200 頭以上の経営体が増頭する理由は、「売上高を増加させるため」が 60.0%と最も多く、次いで、「出荷先があるため」が 45.7%となっている。
- 規模拡大への課題について、200 頭以上の経営体では、「子牛の導入価格・販売価格の動向（59.7%）」「資金繰り（52.8%）」「肥育牛の販売価格の動向（51.4%）」「施設・機械の更新・拡大（50.0%）」「後継者・人材確保、育成（41.7%）」等の課題がある。
- 一方、経営規模を「現状維持」「減少する」理由は、「もと牛価格の高騰」が圧倒的に多く、60%以上を占めている。もと畜の高騰は、経営を逼迫させる程の影響を与えているようである。

【詳細版】

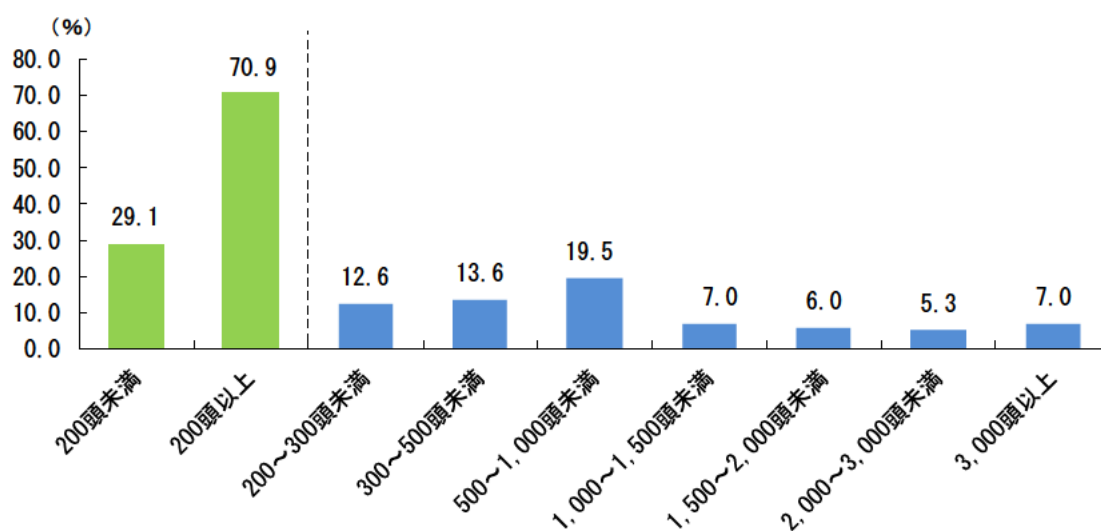
1 平成 28 年度の経営概況

(1) 飼養頭数

① 肥育牛飼養頭数規模別経営体数の分布

■平成 28 年度の肥育牛飼養頭数規模別の経営体数の分布は、「200 頭未満」が 29.1%、「200 頭以上」が 70.9%となった。内訳を見ると、「200～300 頭未満」12.6%、「300～500 頭未満」13.6%、「500～1,000 頭未満」19.5%、「1,000～1,500 頭未満」7.0%、「1,500～2,000 頭未満」6.0%、「2,000～3,000 頭未満」5.3%、「3,000 頭以上」7.0%であった（図 1）。

図 1 肥育牛飼養頭数規模別経営体数の分布

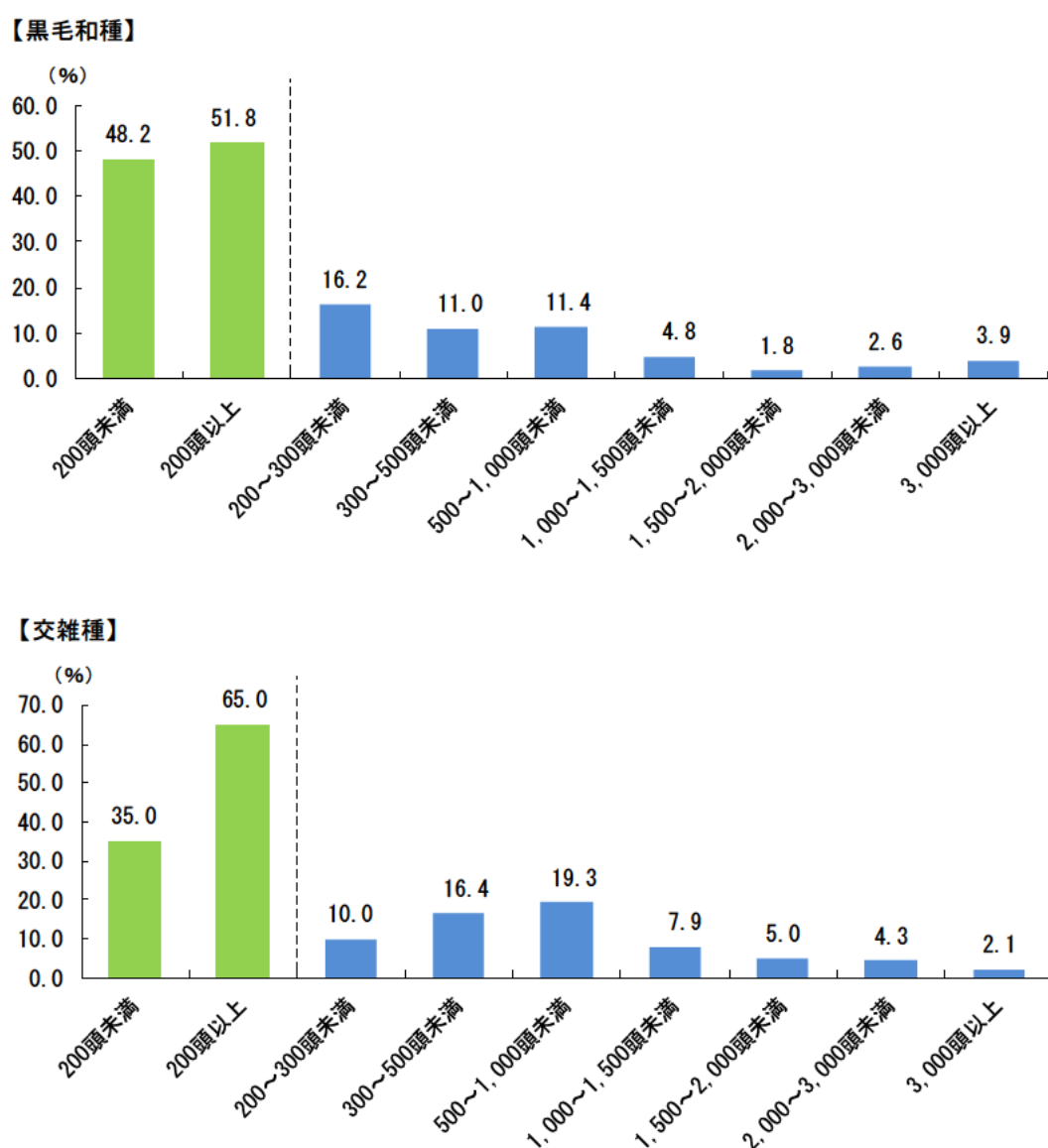


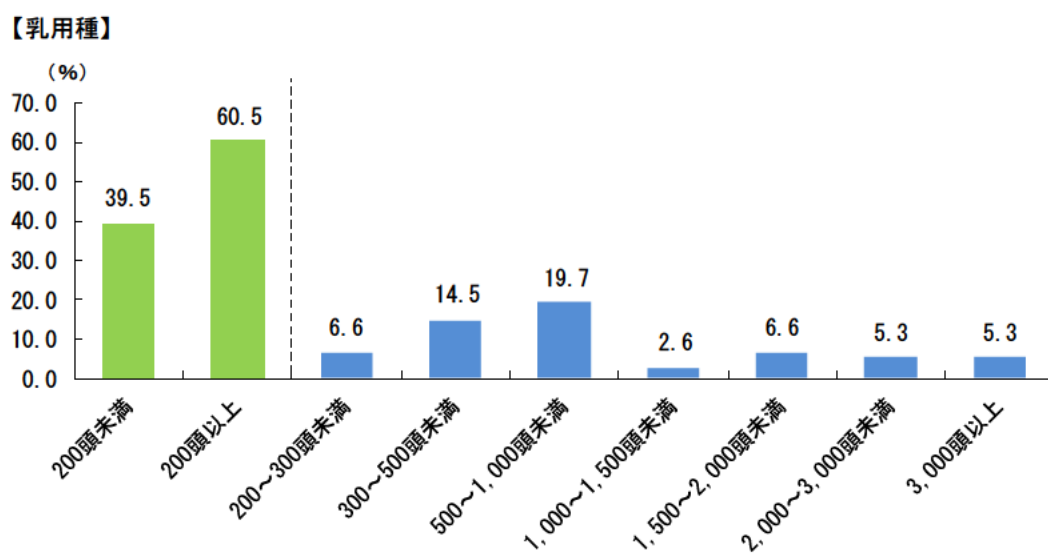
②品種別肥育牛飼養頭数規模別経営体数の割合

■品種別肥育牛飼養頭数規模別経営体数の割合をみると、黒毛和種は「200 頭未満」が 48.2%、「200 頭以上」が 51.8%、交雑種は「200 頭未満」が 35.0%、「200 頭以上」が 65.0%、乳用種は「200 頭未満」が 39.5%、「200 頭以上」が 60.5%であった（図 2。乳用種は次ページに記載）。

■昨年度との平均頭数の比較では、黒毛和種は昨年度：454.1 頭、今年度：569.0 頭。交雑種は昨年度：712.6 頭、今年度：617.5 頭。乳用種は昨年度：722.9 頭、今年度：693.4 頭となった。

図 2 品種別肥育牛飼養頭数規模別経営体数の割合





(2) 経営土地面積、畜産用地

■肥育牛飼養頭数規模別の1経営体当たりの経営土地面積は、200頭以上の経営体では20.6ha。畜産用地は200頭以上の経営体では29.5haであった。畜産用地、特に畜舎については、飼養頭数の規模に比例して用地の規模も拡大する(表1)。近隣にまとまった土地があると、規模拡大が推進しやすいといえよう。

表1 経営土地面積、畜産用地

【全体】		(ha)						
		経営土地	田	畑	牧草地	畜産用地	畜舎	その他
全体		21.2	4.1	6.0	11.1	28.2	1.3	26.9
肥育牛・飼養規模別	200頭未満・計	21.5	6.3	4.0	11.2	24.5	0.4	24.1
	200頭以上・計	20.6	2.8	6.8	11.0	29.5	1.7	27.8
	200～300頭未満	18.1	1.6	6.0	10.5	17.4	0.4	17.0
	300～500頭未満	13.0	1.9	1.3	9.8	10.6	0.6	10.0
	500～1,000頭未満	26.8	3.0	8.0	15.8	18.9	1.3	17.6
	1,000～1,500頭未満	11.2	2.1	4.1	5.0	14.0	1.3	12.7
	1,500～2,000頭未満	22.7	7.7	9.6	5.4	30.7	3.2	27.5
	2,000～3,000頭未満	45.6	9.5	12.8	23.3	47.3	3.6	43.7
3,000頭以上	19.5	-	11.4	8.1	91.1	5.0	86.1	

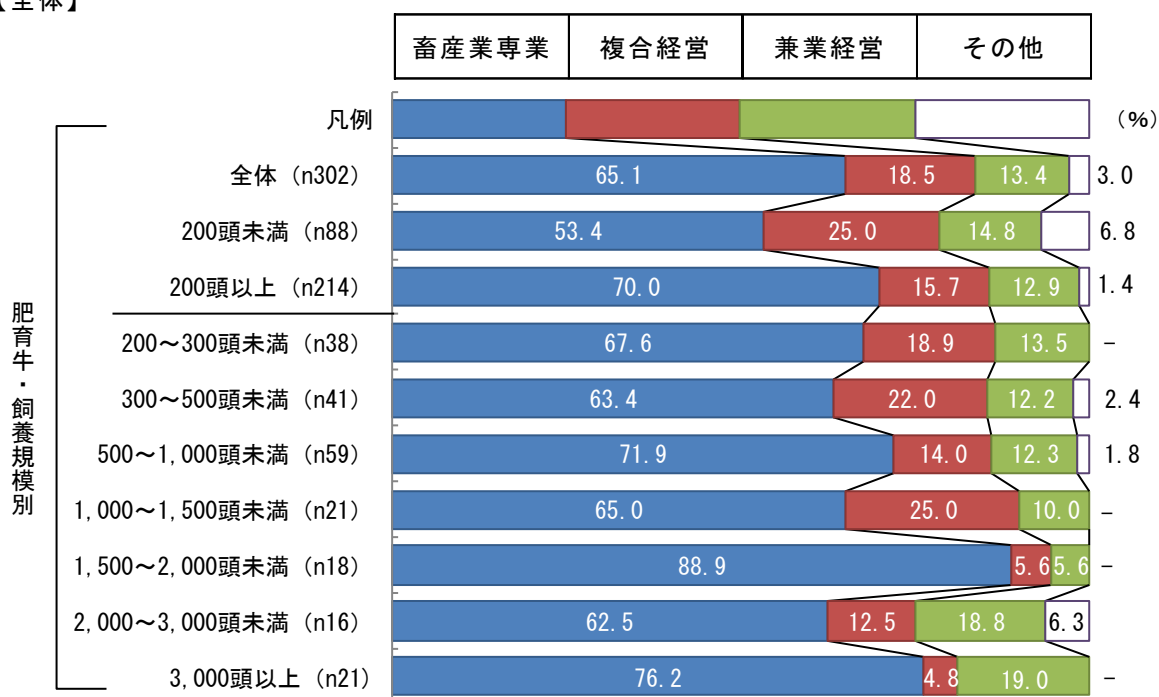
(3) 経営形態

①畜産専業・兼業の状況

■畜産専業・兼業の状況は、200 頭未満の経営体では「畜産業専業」が 53.4%、「複合経営」が 25.0%、「兼業経営」が 14.8%であった。200 頭以上の経営体では、「畜産業専業」が 70.0%、「複合経営」が 15.7%、「兼業経営」が 12.9%であった（図 3）。飼養規模が大きい経営体の方が、専業経営の割合が高くなっており、この傾向は昨年度から引き続いている。

図 3 畜産専業・兼業の状況

【全体】



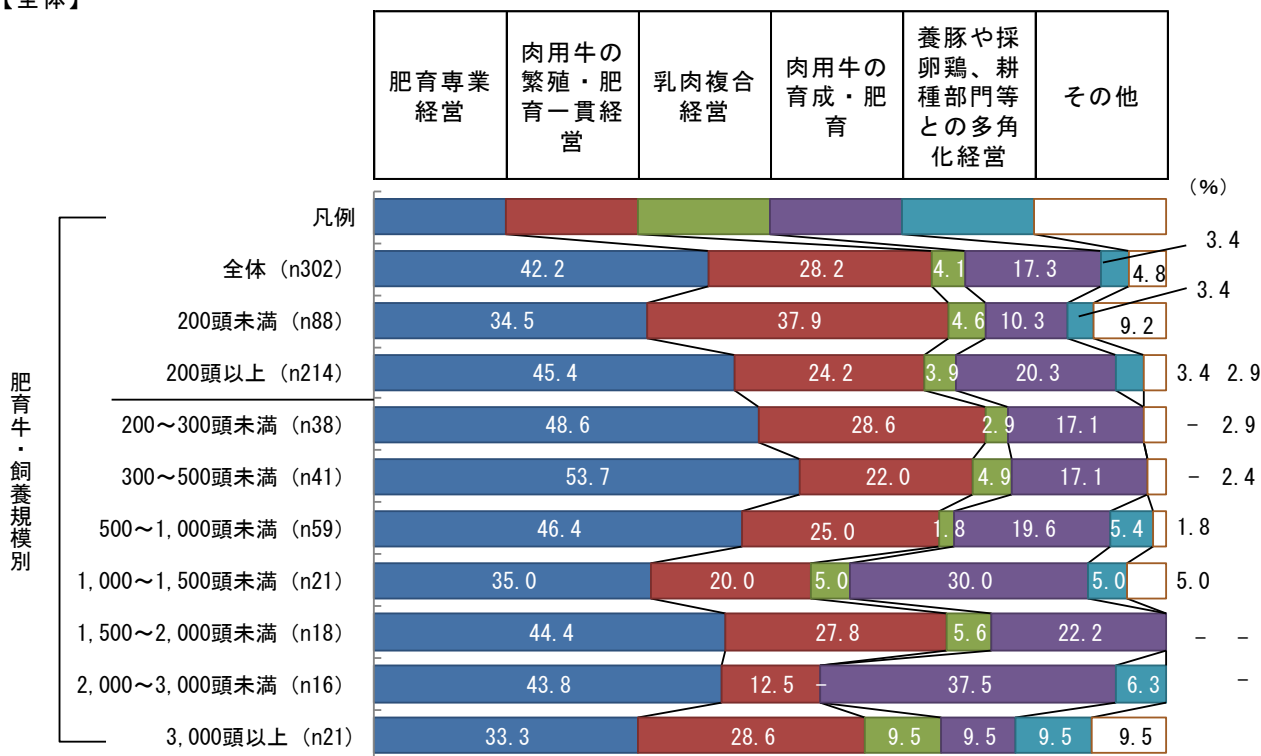
※「複合経営」は“畜産+稲作等作物”、「兼業経営」は“畜産+他産業/肉の加工、販売、飲食店経営”を示している。

②肉用牛経営の形態

■肉用牛経営の形態は、200 頭未満の経営体では、「肥育専門経営」が34.5%、「繁殖・肥育一貫経営」が37.9%、「乳肉複合経営」が4.6%、「育成・肥育」が10.3%等となっている。200 頭以上の経営体では、「肥育専門経営」が45.4%、「繁殖・肥育一貫経営」が24.2%、「乳肉複合経営」が3.9%、「育成・肥育」が20.3%等となっている。200 頭以上の経営体の方が肥育専門経営の割合が高くなっている（図4）。近年のもと畜価格の高騰を受けた影響からか、200 頭以上の経営体では、「繁殖・肥育一貫経営」が昨年度：18.1%から今年度：24.2%へ増加している。

図 4 経営形態

【全体】

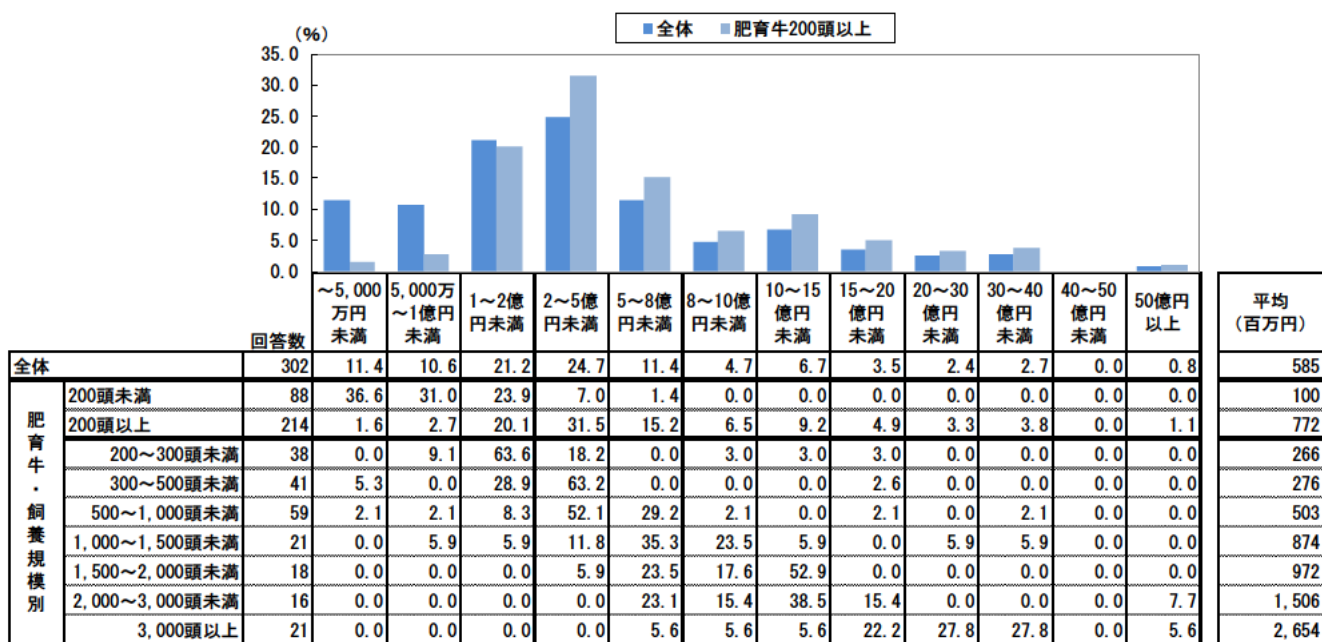


(4) 売上高

①農業経営体全体

■農業経営体全体の売上高（平成 28 年度）は、200 頭未満の経営体は「～5,000 万円未満」（36.6%）、「5,000 万～1 億円未満」（31.0%）、「1～2 億円未満」（23.9%）がボリュームゾーンであり、平均で 1 億円であった。200 頭以上の経営体は「1～2 億円未満」（20.1%）、「2～5 億円未満」（31.5%）、「5～8 億円未満」（15.2%）がボリュームゾーンであり、平均 7 億 7,200 万円であった（図 5）。昨年度の 200 頭以上の経営体の平均売上高 7 億 3,100 万円と比較すると、やや増加している。

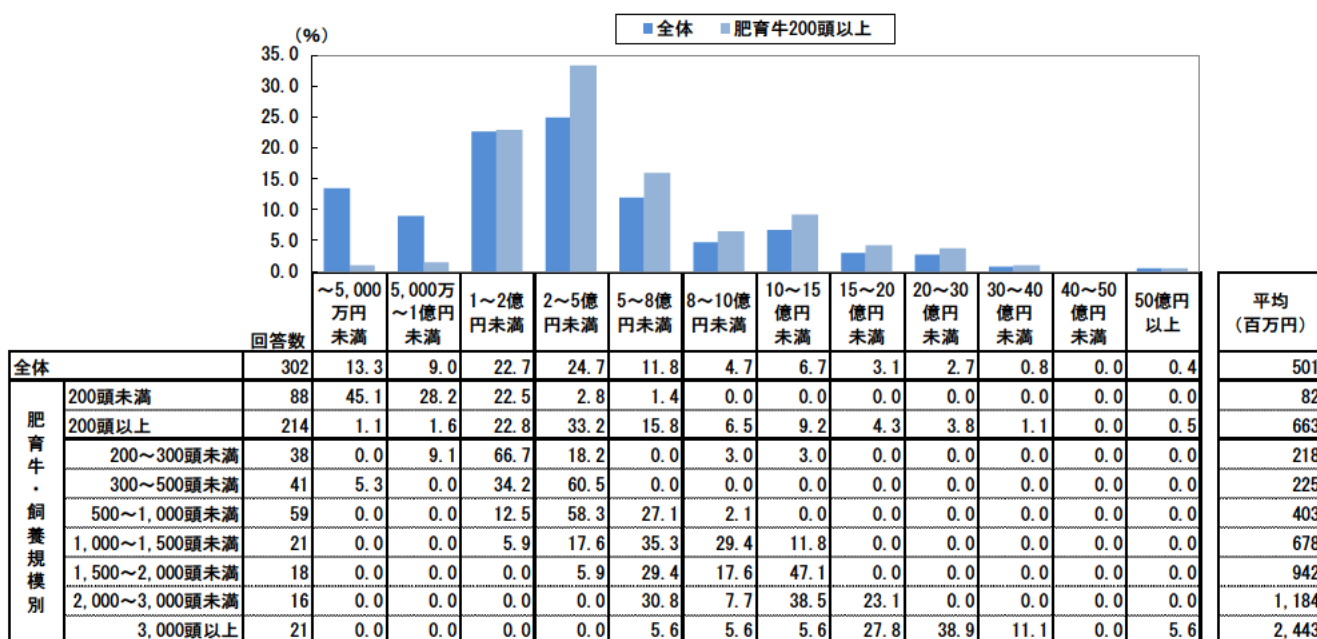
図 5 農業経営体全体の売上高



②肉用牛関連

■農業経営体全体の売上高（平成 28 年度）は、200 頭未満の経営体は「～5,000 万円未満」（45.1%）、「5,000 万～1 億円未満」（28.2%）、「1～2 億円未満」（22.5%）がボリュームゾーンであり、平均で 8,200 万円であった。200 頭以上の経営体は「1～2 億円未満」（22.8%）、「2～5 億円未満」（33.2%）、「5～8 億円未満」（15.8%）がボリュームゾーンであり、平均 6 億 6,300 万円であった（図 6）。昨年度の 200 頭以上の経営体の平均売上高 6 億 600 万円と比較すると、かなりの程度増加している。交雑種や乳用種の価格は下落傾向だったが、黒毛和種が高値で安定したことが背景にあると思われる。

図 6 肉用牛関連の売上高

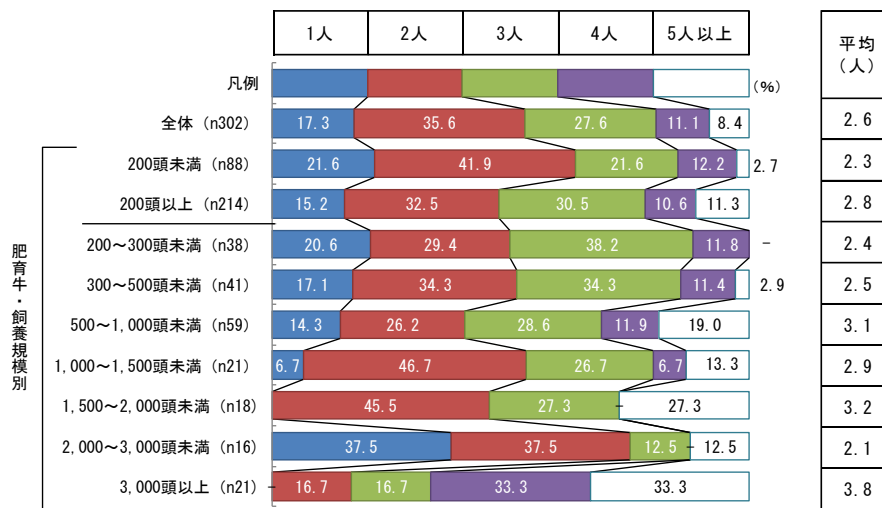


(5) 労働力

① 家族労働力

■ 肥育牛飼養頭数規模別では、200 頭未満の経営体は平均 2.3 人、200 頭以上の経営体は平均 2.8 人であった (図 7)。

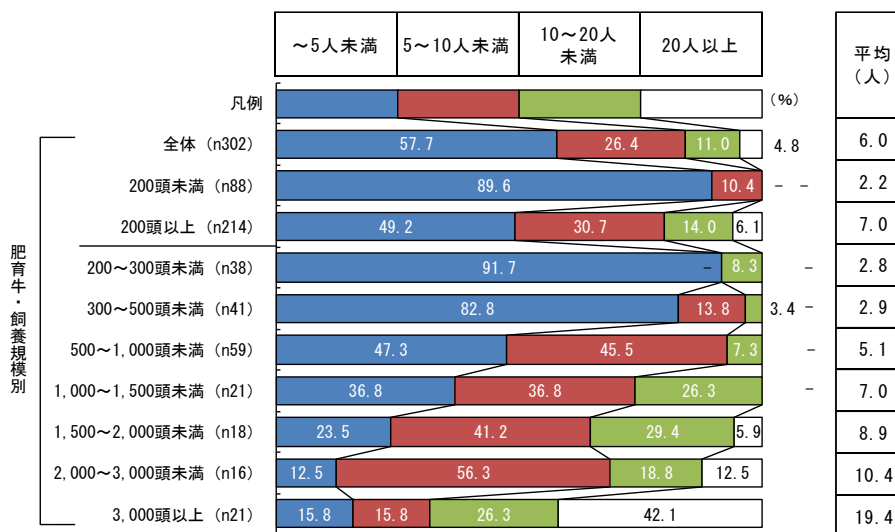
図 7 肉用牛関連・家族労働力



② 正社員 (常時雇用者)

■ 肉用牛関連に従事する正社員は、200 頭未満の経営体は平均 2.2 人、200 頭以上の経営体は平均 7.0 人であった (図 8)。2,000~3,000 頭未満の経営体では平均 10.4 人、3,000 頭以上の経営体では平均 19.4 人となっており、平均で 10 人を超えている。

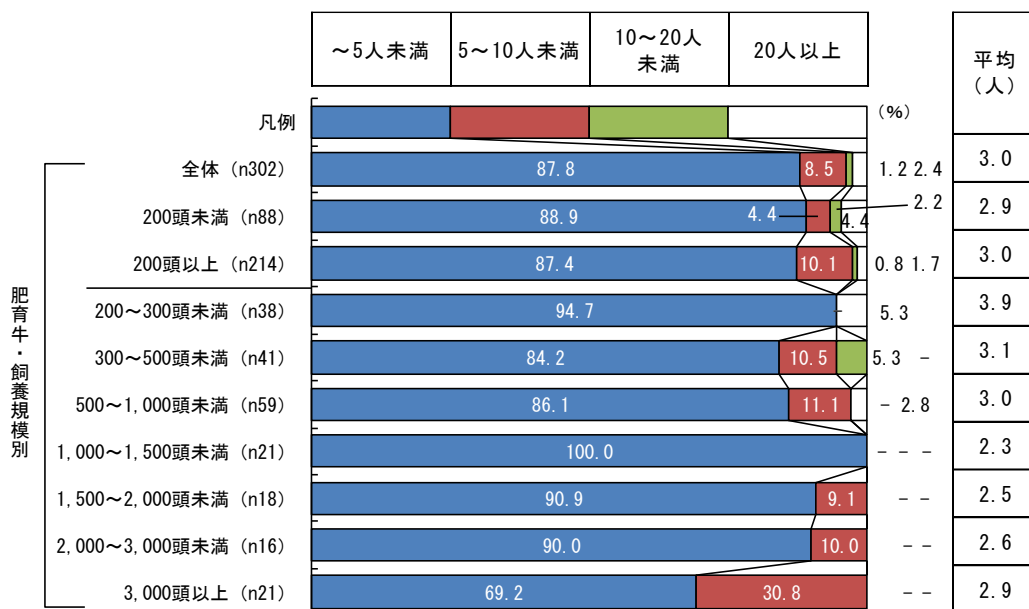
図 8 肉用牛関連・正社員



③非正社員（臨時雇用者）

■肉用牛関連の非正社員は、200 頭未満の経営体は平均 2.9 人、200 頭以上の経営体は平均 3.0 人であった（図 9）。

図 9 肉用牛関連・非正社員



④肉用牛関連作業における家族の1日当たりの労働時間

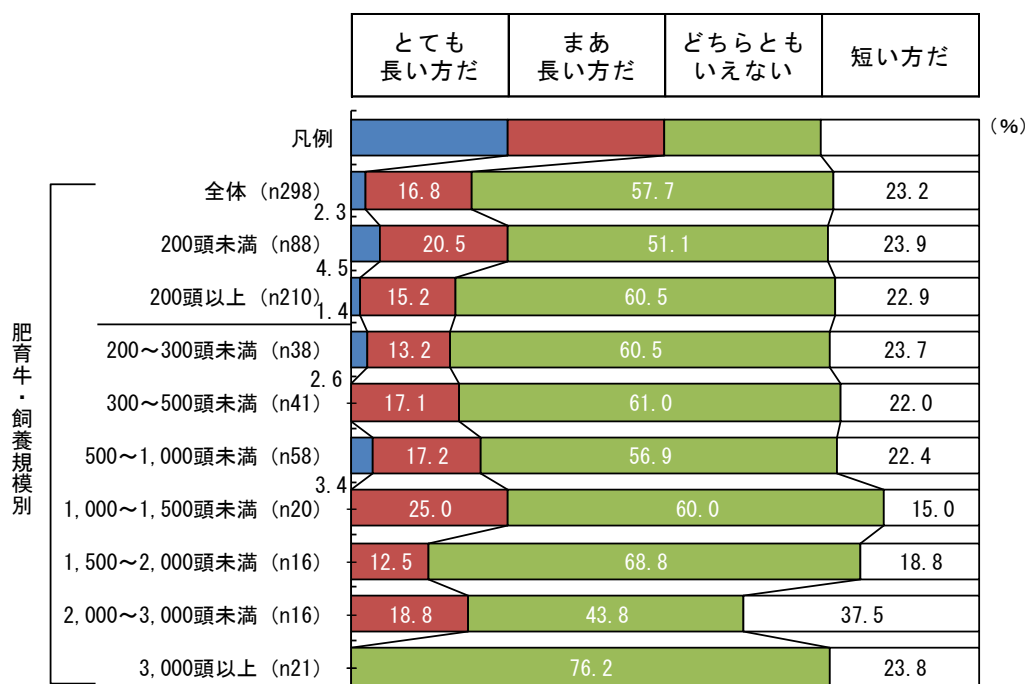
■肉用牛関連作業における家族の1日当たりの平均労働時間は、全体で7.5時間となっている。肥育牛飼養頭数規模別では、200頭未満の経営体では6.8時間、200頭以上の経営体では7.8時間であった（表2）。

■また、従業員の労働時間の長さについての意識を質問したところ、全体で「とても長い方だ」が2.3%、「まあ長い方だ」が16.8%、「どちらともいえない」が57.7%、「短い方だ」が23.2%となった。経営体の規模による大きな差異は見られず、「どちらともいえない」が半数以上を占める結果となった（図10）。

表 2 肉用牛関連作業における家族の労働時間

		(時間/日)
		肉用牛関連の 1日・1人当たりの 労働時間
全体		7.5
肥育牛・ 飼養規模別	200頭未満	6.8
	200頭以上	7.8
	200～300頭未満	7.8
	300～500頭未満	7.8
	500～1,000頭未満	7.6
	1,000～1,500頭未満	8.2
	1,500～2,000頭未満	8.1
2,000～3,000頭未満	7.7	
3,000頭以上	8.0	

図 10 従業員の労働時間の長さについての意識



2 生産費（肥育牛1頭当たり）

■品種別に見ると、肥育牛200頭以上の経営体では、黒毛和種1,133,339円、交雑種769,714円、乳用種560,248円となっている（表3～5）。

■サンプル調査ということから、必ずしも生産費構造のモデルを示しているものではないが、近年のもと畜費高騰を反映してか、本調査でも生産費は上昇傾向が見られる（昨年度は、黒毛和種1,072,392円、交雑種740,816円、乳用種467,673円だった）。

■生産費の中でもっとも占有率が高いのは、「もと畜費」であり、構成比を算出すると、200頭以上では黒毛和種が57.8%（昨年度：55.7%）、交雑種が45.4%（昨年度：41.6%）、乳用種では39.9%（昨年度：33.2%）であり、もと畜費の占有率が上昇するという結果となった。

表3 黒毛和種の実生産費

	n数	もと畜費 (円)	購入 飼料費 (円)	牧草・ 放牧・ 採草費 (円)	敷料費 (円)	光熱 水道力 費 (円)	消耗諸 材料費 (円)	獣医師 料及び 医薬品 費 (円)	賃借料 及び料 金 (円)	物件税 及び公 課諸負 担 (円)	建物費 (円)	自動車 費、農 機具費 (円)	生産管 理費 (円)	労働費 (円)	支払 利子 (円)	支払 地代 (円)	副産物 価額 (円)	生産費 (円)	
全体	228	651,856	277,404	32,688	19,830	29,464	13,494	22,392	14,345	13,543	26,532	17,836	14,827	53,855	20,862	12,742	11,893	1,209,777	
肥育牛・ 飼養規 模別	200頭未満	110	645,869	303,806	38,429	27,340	43,952	24,234	28,382	19,630	14,831	21,137	24,282	23,090	56,803	29,261	22,385	16,622	1,306,809
	200頭以上	118	655,599	256,353	27,305	13,894	18,038	5,747	18,052	10,602	12,533	30,600	13,081	9,431	51,787	13,916	6,046	9,645	1,133,339
	200～300頭未満	37	675,706	270,413	22,140	17,851	16,853	3,754	18,039	8,558	12,137	31,545	14,089	7,698	50,116	18,726	5,571	7,820	1,165,376
	300～500頭未満	25	673,311	260,236	32,250	9,799	22,209	7,919	16,535	12,921	22,102	23,939	11,711	12,155	50,668	11,928	10,563	6,699	1,171,547
	500～1,000頭未満	26	646,199	256,909	38,656	17,304	14,190	4,847	19,344	20,226	8,605	46,942	14,945	7,773	63,097	11,566	5,078	17,552	1,158,129
	1,000～1,500頭未満	11	629,587	215,864	44,783	11,265	29,659	7,403	9,979	5,664	5,589	13,878	15,333	2,278	39,944	10,116	3,362	7,701	1,037,003
	1,500～2,000頭未満	4	627,816	292,332	5,556	8,207	16,493	11,535	27,436	4,884	7,468	33,900	13,857	28,073	68,576	17,518	1,057	12,769	1,151,939
	2,000～3,000頭未満	6	627,293	211,159	26,220	15,999	14,576	5,071	19,786	5,047	5,702	12,618	10,732	12,000	34,456	4,442	3,758	1,723	1,007,136
3,000頭以上	9	621,509	243,314	8,815	6,388	8,536	6,102	21,962	6,984	9,308	27,699	3,354	1,889	32,622	4,358	3,236	9,341	996,735	

※生産費は、費用合計から副産物価格を控除した上で、支払利子及び支払地代を加えたものを指す。

表4 交雑種の実生産費

	n数	もと畜費 (円)	購入 飼料費 (円)	牧草・ 放牧・ 採草費 (円)	敷料費 (円)	光熱 水道力 費 (円)	消耗諸 材料費 (円)	獣医師 料及び 医薬品 費 (円)	賃借料 及び料 金 (円)	物件税 及び公 課諸負 担 (円)	建物費 (円)	自動車 費、農 機具費 (円)	生産管 理費 (円)	労働費 (円)	支払 利子 (円)	支払 地代 (円)	副産物 価額 (円)	生産費 (円)	
全体	140	339,054	279,675	26,593	15,680	15,230	5,743	15,992	13,447	10,680	22,956	12,465	6,617	44,495	16,755	9,775	8,350	826,807	
肥育牛・ 飼養規 模別	200頭未満	49	308,663	305,642	24,926	17,617	23,837	7,282	20,770	20,104	16,634	31,170	19,696	8,242	59,183	6,581	9,121	8,458	874,010
	200頭以上	91	349,637	265,223	23,599	14,173	10,052	3,204	10,553	9,837	7,182	19,072	9,150	5,916	35,482	8,282	7,170	8,818	769,714
	200～300頭未満	14	336,097	308,154	33,431	20,789	16,777	7,449	16,546	16,087	9,665	19,185	13,033	8,574	51,306	8,763	5,458	6,621	864,693
	300～500頭未満	23	348,011	249,701	19,600	6,622	8,131	3,246	5,864	11,389	10,055	9,264	9,288	1,802	27,373	6,126	2,396	9,069	709,799
	500～1,000頭未満	27	343,646	275,171	35,071	24,073	9,209	1,580	18,202	13,832	4,421	29,625	14,631	11,593	46,695	11,564	16,345	7,696	847,962
	1,000～1,500頭未満	11	379,446	283,147	22,203	10,885	7,008	2,974	4,717	12,894	7,929	7,976	5,643	971	31,648	6,129	988	9,933	774,625
	1,500～2,000頭未満	7	358,735	244,535	16,083	25,084	12,642	3,873	11,242	4,385	3,160	28,861	5,846	1,383	37,678	10,763	9,397	3,843	769,824
	2,000～3,000頭未満	6	352,182	252,944	21,387	11,737	12,099	2,161	3,163	1,403	7,764	26,973	7,754	16,228	19,402	7,881	5,850	17,488	731,440
3,000頭以上	3	319,534	204,501	16,000	3,774	9,499	1,039	14,703	38	2,772	19,225	2,436	807	24,325	4,950	19	5,821	617,801	

※生産費は、費用合計から副産物価格を控除した上で、支払利子及び支払地代を加えたものを指す。

表5 乳用種の生産費

	n数	もと畜費 (円)	購入飼料費 (円)	牧草・放牧・採草費 (円)	敷料費 (円)	光熱水道力費 (円)	消耗諸材料費 (円)	獣医師料及び医薬品費 (円)	賃借料及び料金 (円)	物件税及び公課諸負担 (円)	建物費 (円)	自動車費、農機具費 (円)	生産管理費 (円)	労働費 (円)	支払利子 (円)	支払地代 (円)	副産物価額 (円)	生産費 (円)	
全体	76	205,417	241,006	15,139	15,810	9,408	4,157	10,020	6,228	12,058	12,875	13,944	6,319	24,283	8,605	8,229	4,692	588,806	
肥育牛・飼養規模別	200頭未満	30	160,473	305,330	13,625	10,814	13,088	7,342	10,907	7,375	9,281	12,583	11,318	9,743	30,891	12,105	15,600	4,210	626,265
	200頭以上	46	223,780	200,851	15,832	18,276	7,269	2,808	9,488	4,861	13,978	12,983	16,266	5,320	21,099	6,227	6,290	5,080	560,248
	200～300頭未満	5	239,957	224,750	21,333	15,667	5,750	2,750	9,250	4,000	12,667	8,000	6,500	10,000	41,000	10,000	5,750	1,370	616,004
	300～500頭未満	11	195,185	270,475	19,147	28,616	9,577	3,051	15,640	3,012	32,754	19,645	13,950	10,915	33,233	5,000	11,781	1,232	670,749
	500～1,000頭未満	15	227,321	166,928	12,167	18,527	7,867	4,344	8,045	6,172	5,109	13,346	28,327	3,252	18,934	6,010	3,588	8,694	521,243
	1,000～1,500頭未満	2	243,916	132,000	11,000	16,000	6,000	2,000	2,000	2,000	26,000	8,000	20,000	2,000	8,000	8,000	10,000	5,937	490,979
	1,500～2,000頭未満	5	223,780	183,500	15,000	16,000	3,500	1,500	18,000	6,000	2,000	1,000	2,000	1,000	13,000	1,000	5,000	6,362	485,918
	2,000～3,000頭未満	4	254,668	169,750	15,250	9,000	6,250	1,250	5,667	7,000	1,000	5,500	6,000	1,000	6,750	1,000	1,000	2,536	488,549
3,000頭以上	4	225,537	176,000	26,000	12,000	7,000	1,000	2,500	5,500	11,000	10,000	6,000	1,000	14,000	9,000	19,000	2,383	523,154	

※生産費は、費用合計から副産物価格を控除した上で、支払利子及び支払地代を加えたものを指す。

3 もと畜の導入状況

(1) 年間もと畜導入状況

■もと畜の年間外部導入頭数は、「黒毛和種」が274頭（昨年度315頭）、「交雑種（初生牛）」が451頭（昨年度489頭）、「交雑種（子牛）」が496頭（昨年度619頭）、「乳用種（初生牛）」が917頭（昨年度723頭）、「乳用種（子牛）」が640頭（昨年度922頭）である。

■1頭当たりの導入価格は、「黒毛和種」が651,856円（昨年度582,972円）、「交雑種（初生牛）」が239,250円（昨年度211,566円）、「交雑種（子牛）」が339,054円（昨年度304,670円）、「乳用種（初生牛）」が110,061円（昨年度59,528円）、「乳用種（子牛）」が205,417円（昨年度154,544円）である。近年のもと畜価格の高騰の影響を受けたものと思われる。

■肥育開始時の1頭当たりの平均体重は、「黒毛和種」が284.7kg、「交雑種（初生牛）」が266.5kg、「交雑種（子牛）」が291.1kg、「乳用種（初生牛）」が291.1kg、「乳用種（子牛）」が287.6kgである（表6）。

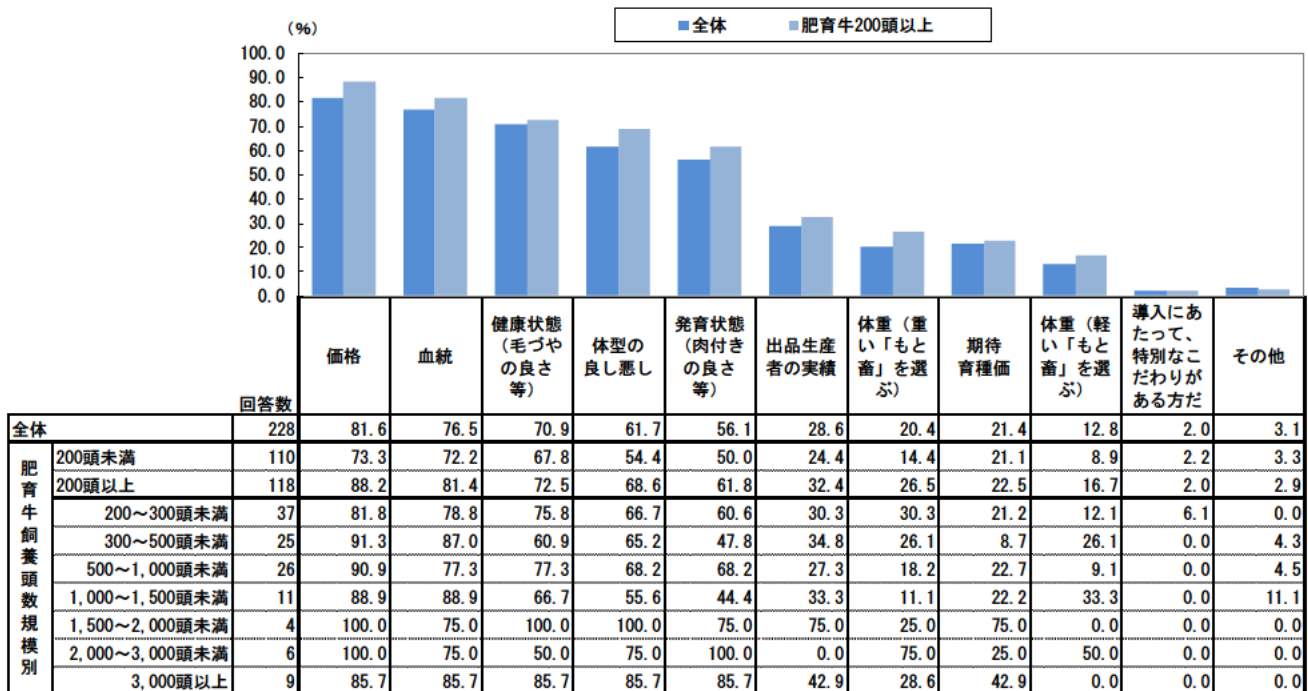
表6 もと畜の年間の導入状況

		もと畜の外部 導入頭数 (頭)	1頭あたりの 平均取得価格 (円)	1頭あたりの 平均生体重 (kg)	肥育開始時の 1頭あたりの 平均月齢 (ヶ月)	肥育開始時の 1頭あたりの 平均生体重 (kg)
黒毛和種		274	651,856	264.7	9.0	284.7
交雑種	初生牛	451	239,250	66.7	7.1	266.5
	子牛	496	339,054	257.3	8.2	291.1
乳用種	初生牛	917	110,061	70.7	7.1	291.1
	子牛	640	205,417	278.7	7.0	287.6

(2) もと畜を外部から導入する際の重視点

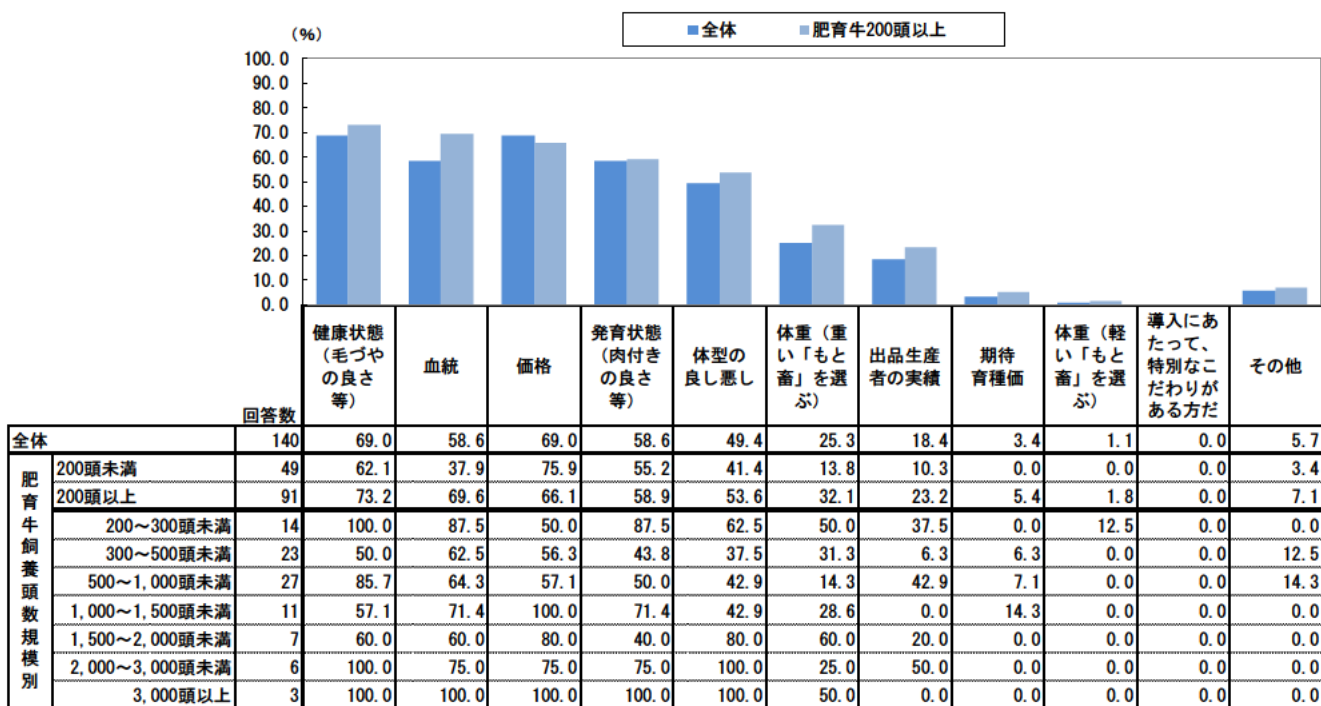
■もと畜（黒毛和種）を外部から導入する際の重視点については、肥育牛 200 頭以上の経営体では、「価格（88.2%）」「血統（81.4%）」「健康状態（72.5%）」「体型の良し悪し（68.6%）」「発育状態（61.8%）」が上位となる（図11）。昨年度と同様に200頭以上の経営体は、これら上位項目を200頭未満の経営体よりも重視する傾向がある。

図 11 もと畜（黒毛和種）を導入する際の重視点



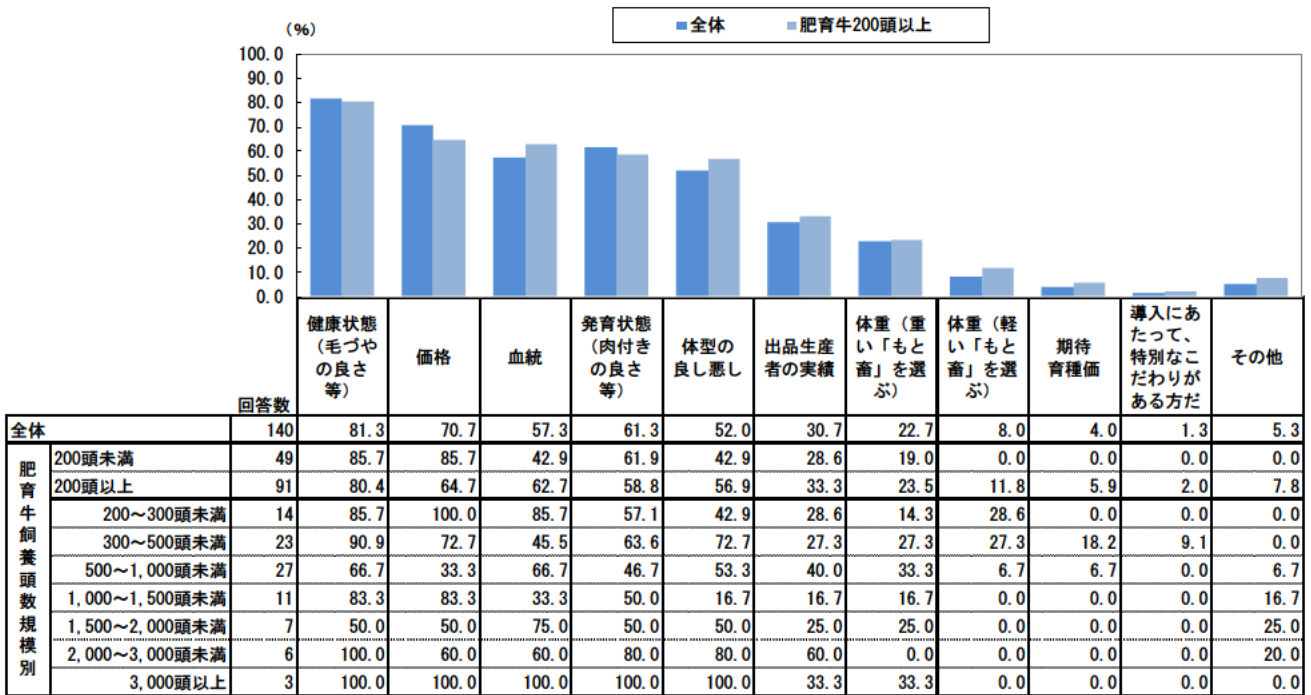
■もと畜（交雑種・初生牛）を外部から導入する際の重視点については、肥育牛200頭以上の経営体では、「健康状態（73.2%）」「血統（69.6%）」「価格（66.1%）」「発育状態（58.9%）」「体型の良し悪し（53.6%）」が上位となる（図12）。

図12 もと畜（交雑種・初生牛）を導入する際の重視点



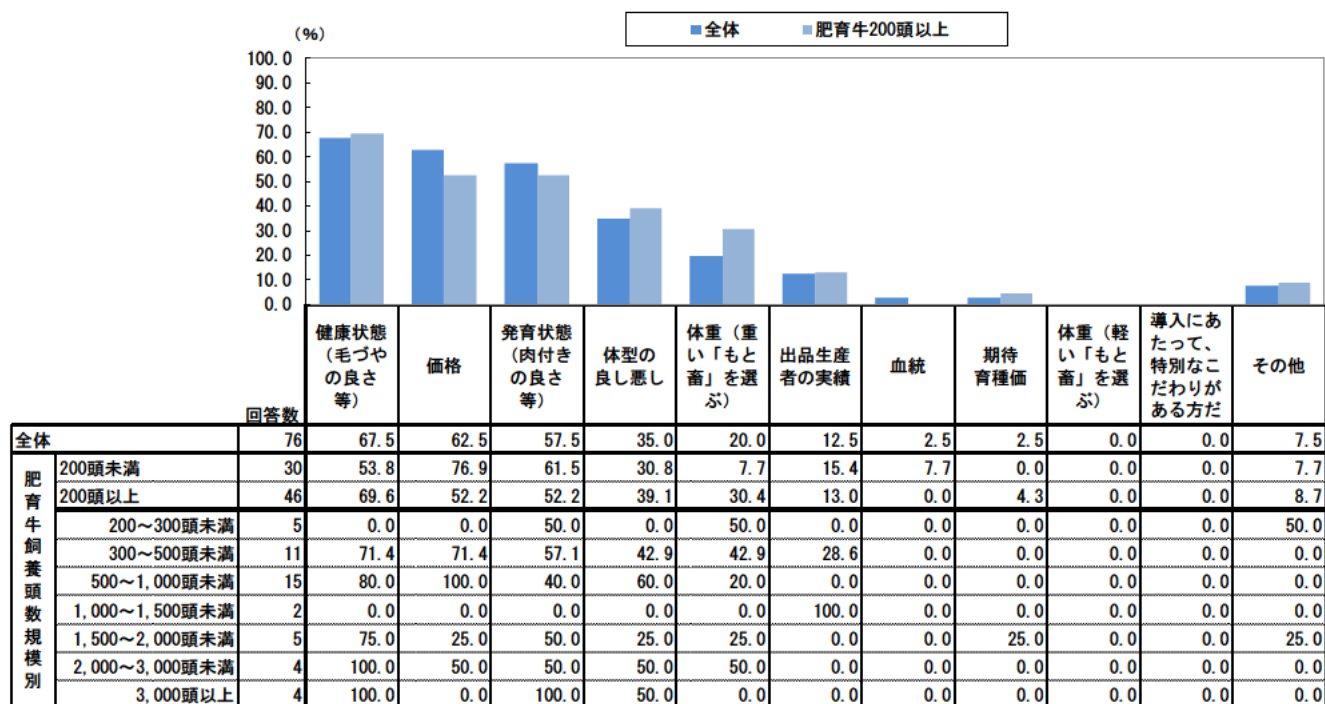
■もと畜（交雑種・子牛）を外部から導入する際の重視点については、肥育牛200頭以上の経営体では、「健康状態（80.4%）」「価格（64.7%）」「血統（62.7%）」「発育状態（58.8%）」「体型の良し悪し（56.9%）」が上位となる（図13）。

図13 もと畜（交雑種・子牛）を導入する際の重視点



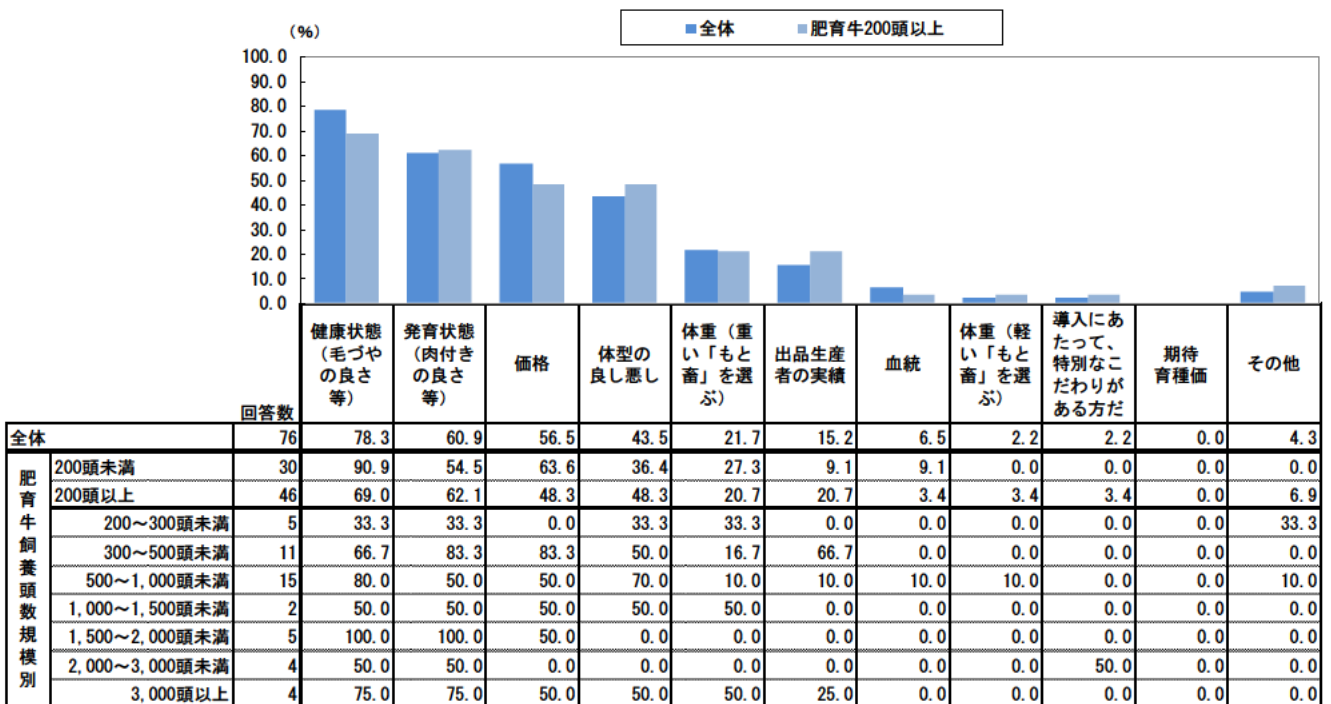
■もと畜（乳用種・初生牛）を外部から導入する際の重視点については、肥育牛 200 頭以上の経営体では、「健康状態（69.6%）」「価格（52.2%）」「発育状態（52.2%）」「体型の良し悪し（39.1%）」「体重（重い、30.4%）」が上位である（図 14）。

図 14 もと畜（乳用種・初生牛）を導入する際の重視点



■もと畜（乳用種・子牛）を外部から導入する際の重視点については、肥育牛200頭以上の経営体では、「健康状態（69.0%）」「発育状態（62.1%）」「価格（48.3%）」「体型の良し悪し（48.3%）」が上位となる（図15）。

図15 もと畜（乳用種・子牛）を導入する際の重視点



4 肥育牛の出荷状況

(1) 黒毛和種

■年間出荷頭数は、200 頭以上の経営体では、「黒毛和種」が534 頭である。

■平均販売価格は、200 頭以上の経営体では、市場出荷の枝肉単価 2,415 円/kg、相対取引の枝肉単価 2,455 円/kg となっている。相対取引の場合でも、市場の価格動向を見ているためか、市場出荷と相対取引の価格差はほぼ見られなかった（表7）。

表7 出荷状況（黒毛和種）

	年間の 出荷頭数 (頭)	市場出荷 の枝肉の 平均単価 (円/kg)	相対取引 の枝肉の 平均単価 (円/kg)	市場出荷 の1頭あ たりの平 均販売額 (円)	相対取引 の1頭あ たりの平 均販売額 (円)	出荷時の 1頭あた りの平均 月齢 (ヶ月)	出荷時の 1頭あた りの平均 生体重 (kg)	1頭あた り平均肥 育日数 (日)	1頭・1 日あた りの平均増 体重 (kg)	
全体	333	2,389	2,431	1,167,840	1,158,940	28.9	757.3	656.4	0.8	
肥育牛・ 飼養規 模別	200頭未満	74	2,354	2,380	1,112,678	1,129,205	28.8	756.0	654.6	0.9
	200頭以上	534	2,415	2,455	1,213,268	1,174,895	29.0	758.3	657.7	0.8
	200～300頭未満	128	2,516	2,406	1,251,266	1,194,513	29.2	780.1	697.5	0.7
	300～500頭未満	244	2,385	2,430	1,167,962	1,153,059	28.5	756.1	607.4	0.8
	500～1,000頭未満	359	2,331	2,570	1,218,028	1,212,209	28.9	757.9	683.1	0.8
	1,000～1,500頭未満	649	2,482	2,498	1,224,166	1,158,150	28.5	709.0	623.1	0.8
	1,500～2,000頭未満	942	2,540	2,471	-	1,192,570	31.3	745.3	668.2	0.7
	2,000～3,000頭未満	1,120	2,268	2,497	1,301,000	1,186,012	30.2	786.7	730.6	0.8
3,000頭以上	2,684	2,343	2,311	1,157,632	1,102,600	28.6	734.1	577.6	0.8	

(2) 交雑種

■年間出荷頭数は、200 頭以上の経営体では、「交雑種」が577 頭である。

■平均販売価格は、200 頭以上の経営体では、市場出荷の枝肉単価 1,446 円/kg、相対取引の枝肉単価 1,483 円/kg となっている。黒毛和種と同様に相対取引の場合でも、市場の価格動向を見ているためか、市場出荷と相対取引の価格差はほぼ見られなかった（表8）。

表8 出荷状況（交雑種）

	年間の 出荷頭数 (頭)	市場出荷 の枝肉の 平均単価 (円/kg)	相対取引 の枝肉の 平均単価 (円/kg)	市場出荷 の1頭あ たりの平 均販売額 (円)	相対取引 の1頭あ たりの平 均販売額 (円)	出荷時の 1頭あた りの平均 月齢 (ヶ月)	出荷時の 1頭あた りの平均 生体重 (kg)	1頭あた り平均肥 育日数 (日)	1頭・1 日あた りの平均増 体重 (kg)	
全体	414	1,459	1,472	717,040	729,866	25.4	790.3	601.5	1.0	
肥育牛・ 飼養規 模別	200頭未満	47	1,490	1,429	667,537	677,203	25.6	759.2	609.9	1.1
	200頭以上	577	1,446	1,483	737,800	739,897	25.4	804.2	597.6	1.0
	200～300頭未満	144	1,550	1,547	868,740	744,444	24.7	780.0	610.9	1.0
	300～500頭未満	254	1,441	1,506	770,084	705,428	25.3	783.8	619.6	1.0
	500～1,000頭未満	394	1,373	1,444	634,415	750,186	25.7	820.7	578.1	1.0
	1,000～1,500頭未満	733	1,441	1,421	702,000	703,577	25.1	795.9	538.0	1.0
	1,500～2,000頭未満	1,194	1,449	1,574	739,916	786,252	25.1	814.2	651.3	1.0
	2,000～3,000頭未満	1,373	1,503	1,454	759,185	734,894	25.3	796.0	598.7	1.0
3,000頭以上	2,574	1,478	1,485	791,215	792,500	27.3	864.4	566.7	1.0	

(3) 乳用種

■年間出荷頭数は、200 頭以上の経営体では、「乳用種」が908 頭である。

■平均販売価格は、200 頭以上の経営体では、市場出荷の枝肉単価 993 円/kg、相対取引の枝肉単価 975 円/kg となっている（表9）。

表 9 出荷状況（乳用種）

	年間の 出荷頭数 (頭)	市場出荷 の枝肉の 平均単価 (円/kg)	相対取引 の枝肉の 平均単価 (円/kg)	市場出荷 の1頭あ たりの平 均販売額 (円)	相対取引 の1頭あ たりの平 均販売額 (円)	出荷時の 1頭あた りの平均 月齢 (ヶ月)	出荷時の 1頭あた りの平均 生体重 (kg)	1頭あた り平均肥 育日数 (日)	1頭・1 日あた りの平均増 体重 (kg)	
全体	652	981	924	418,098	453,574	20.4	762.4	496.9	1.2	
肥育牛・ 飼養規 模別	200頭未満	115	970	775	406,958	448,837	21.8	730.2	545.3	1.1
	200頭以上	908	993	975	428,000	455,154	19.7	776.1	469.0	1.2
	200～300頭未満	234	965	1,003	450,000	382,938	20.7	773.3	505.5	0.9
	300～500頭未満	364	960	1,028	400,000	462,039	19.9	812.8	527.7	0.9
	500～1,000頭未満	685	1,005	933	413,333	452,133	19.8	757.5	432.5	1.3
	1,000～1,500頭未満	922	983	-	432,000	489,128	19.5	809.5	384.5	1.3
	1,500～2,000頭未満	1,464	-	935	-	460,000	16.5	685.0	456.7	1.4
	2,000～3,000頭未満	1,518	-	1,008	440,000	470,277	20.1	816.0	534.3	1.2
3,000頭以上	3,218	1,042	1,026	440,000	482,753	19.8	785.0	414.0	1.2	

(4) 年間の副産物の状況

■きゅう肥の販売数量は、200 頭以上の経営体では1,614 トンとなっている。

■きゅう肥の売上は、200 頭以上の経営体では620 万円となっている。経営体の中には、きゅう肥を積極的に販売し、事業の一つとして位置付けている所もある（表10）。

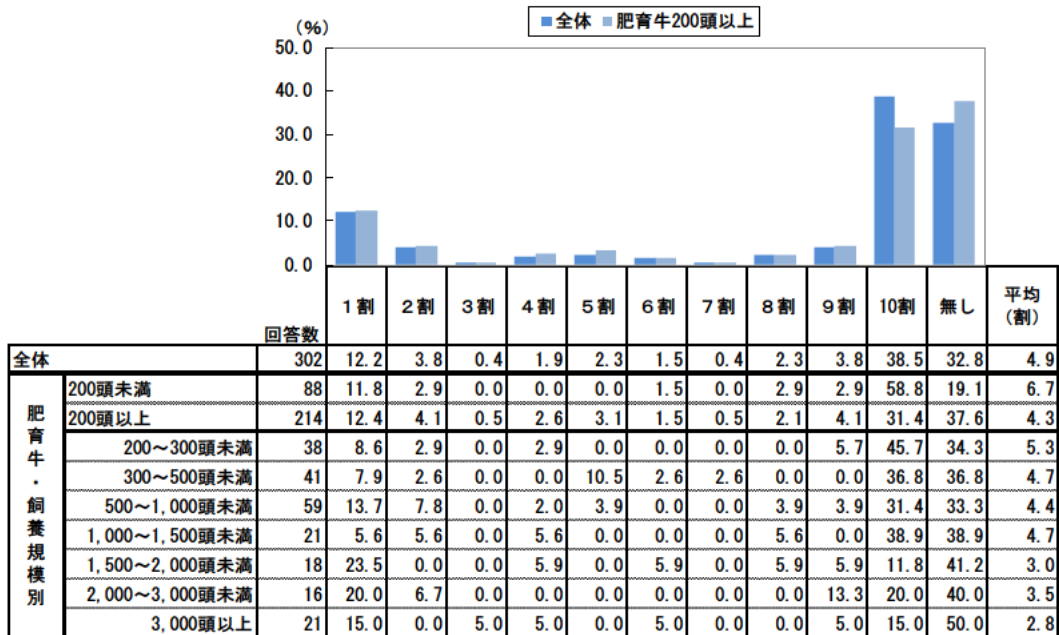
表 10 副産物の状況

	副産物			
	きゅう肥の 販売数量 (トン)	きゅう肥の 売上 (万円)	その他 (万円)	
全体	1,434	519	467	
肥育牛・ 飼養規 模別	200頭未満	781	93	106
	200頭以上	1,614	620	648
	200～300頭未満	749	201	-
	300～500頭未満	733	225	105
	500～1,000頭未満	1,202	442	500
	1,000～1,500頭未満	1,096	774	-
	1,500～2,000頭未満	1,270	580	1,880
	2,000～3,000頭未満	4,102	1,538	-
3,000頭以上	7,170	2,055	-	

(5) 市場出荷、相対取引の状況

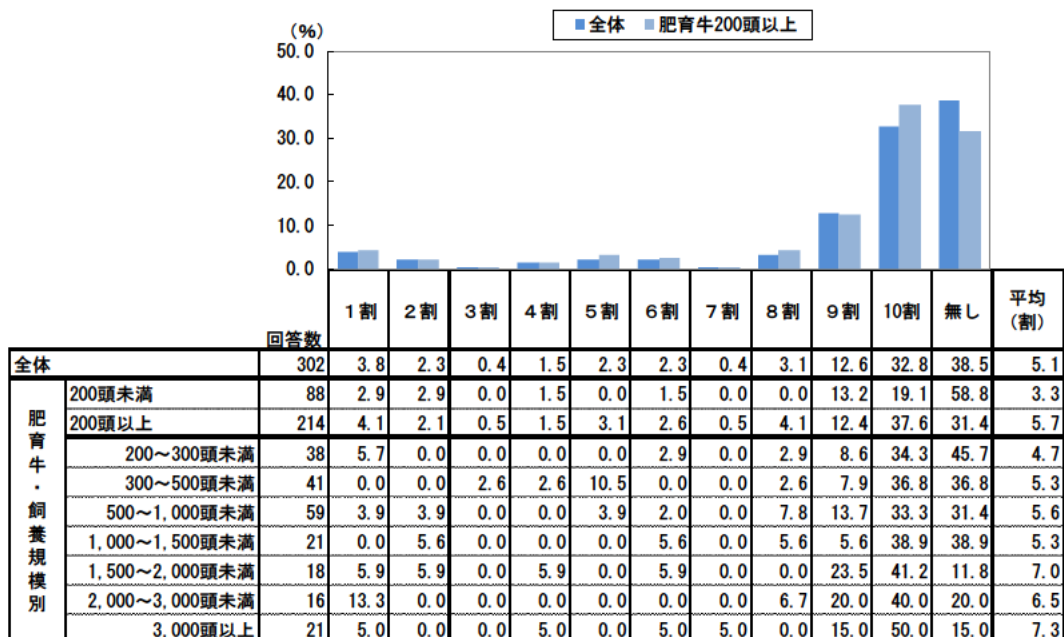
■市場出荷の実施は、200 頭以上の経営体では、平均 4.3 割となっている（図 16）。200 頭未満の経営体と比較すると、市場出荷の割合はやや低い（200 頭未満の経営体は、市場取引が多い）。

図 16 市場出荷の割合



■相対取引の実施は、200 頭以上の経営体で多く行われており、平均 5.7 割となっている（図 17）。200 頭以上の経営体は相対取引が多く、200 頭未満の経営体は市場取引が多い。

図 17 相対取引の割合



- 相対取引の取引先は、200頭以上の経営体では「法人」84.2%と大半を占めている（図18）。200頭未満でも「法人」が82.1%を占め、頭数規模に関わらず、相対取引の取引先は「法人」が多い。
- 相対取引の取引先の地域は、県内が多く、200頭以上の経営体は「全て県内」（45.9%）、「県内が多い」（12.8%）となっている（図19）。200頭未満の経営体でも、「全て県内」が71.4%と多い。

図 18 相対取引の取引先

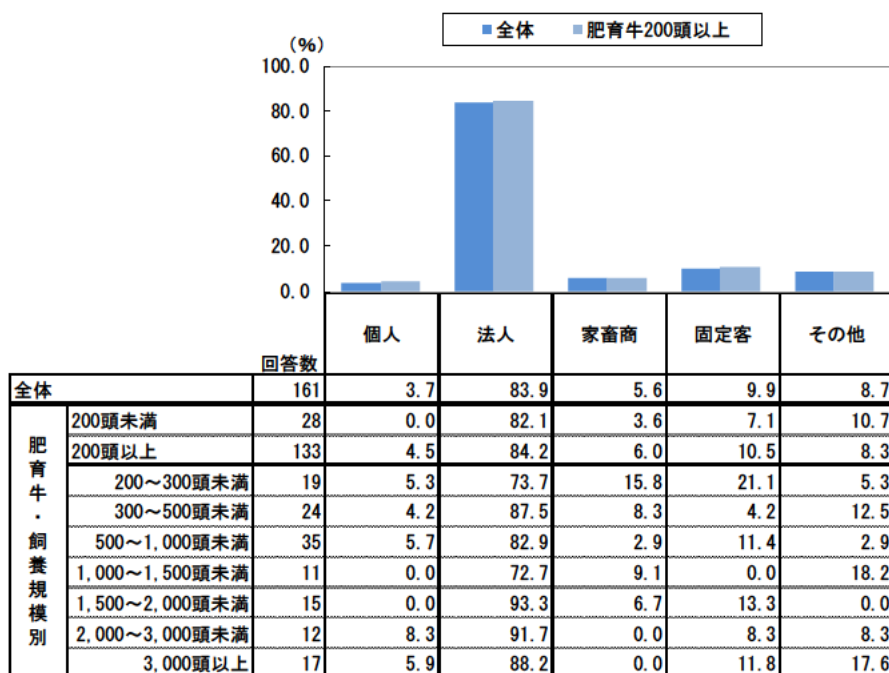
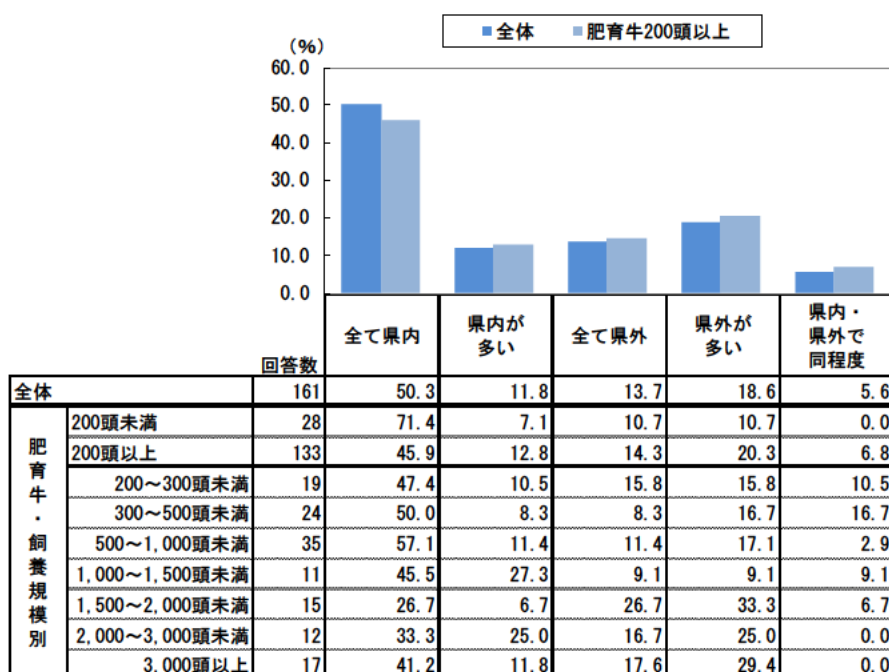


図 19 相対取引の取引先の地域



5 繁殖雌牛の種付状況

■黒毛和種の主な種付方法は「人工授精」であり、受胎率は74.6%となっている。

■交雑種の主な種付方法は「受精卵移植」であり、受胎率は71.1%となっている。

■乳用種の主な種付方法は「人工授精」「受精卵移植」であり、受胎率はそれぞれ52.7%、24.2%となっている（表11）。

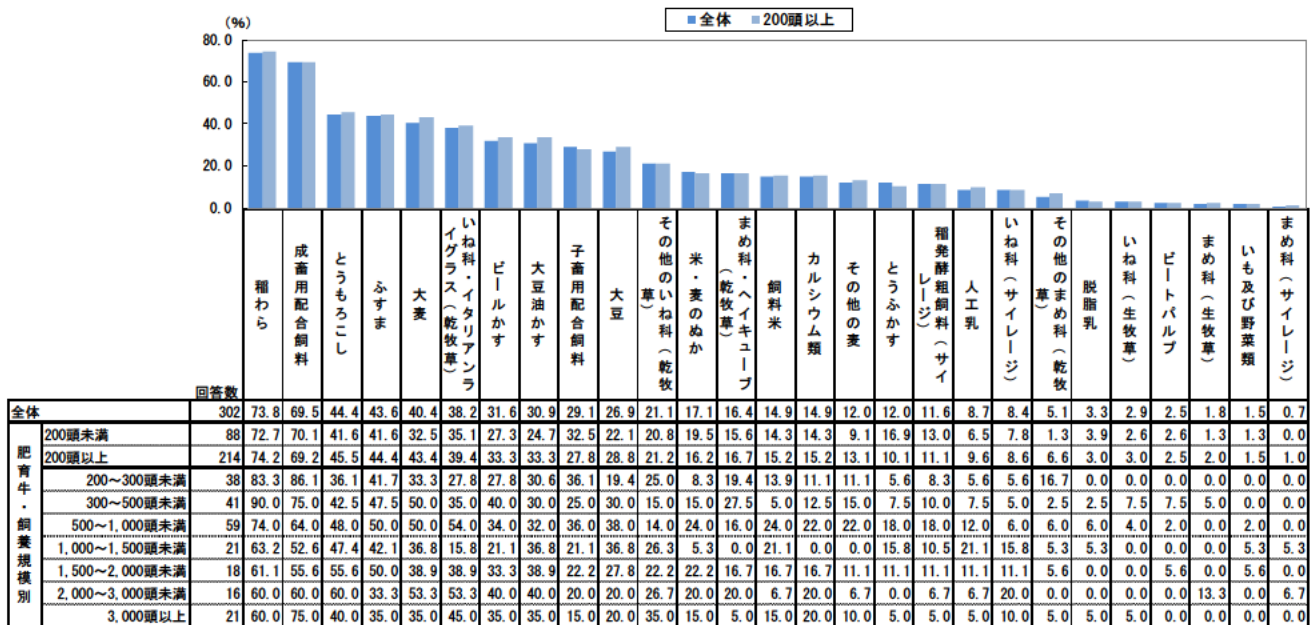
表 11 繁殖雌牛の種付状況

繁殖雌牛の種類	主な種付方法		受胎した頭数（頭）	受胎率（%）	精液、及び受精卵の外部購入割合（%）	1頭1回あたりの精液代・受精卵代（技術料を除く）（円）	1頭1回あたりの技術料（円）	人工授精・受胎までの回数	
		(n)							
①黒毛和種	1:人工授精	96	95.0	337	74.6	98.1	4,414	5,021	2.0
	2:受精卵移植	16	15.8	95	50.8	74.3	13,909	13,968	2.1
	3:自然交配	10	9.9	80	70.8	-	-	-	1.1
②交雑種	1:人工授精	3	16.7	46	60.4	77.5	25,000	7,870	1.9
	2:受精卵移植	16	88.9	29	71.1	77.5	19,420	6,538	1.7
	3:自然交配	1	5.6	-	-	-	-	-	-
③乳用種	1:人工授精	6	75.0	201	52.7	85.7	3,816	4,413	2.3
	2:受精卵移植	8	100.0	45	24.2	-	-	13,650	3.0
	3:自然交配	-	-	-	-	-	-	-	-

6 飼料の給与状況

■給与している飼料の種類について見ると、200 頭以上の経営体では「稲わら (74.2%)」「成畜用配合飼料 (69.2%)」「とうもろこし (45.5%)」「ふすま (44.4%)」「大麦 (43.4%)」「いね科・イタリアンライグラス (39.4%)」の給与が多くなっている (図 20)。

図 20 飼料の給与状況



■肥育牛の給与状況 (1日あたりの1頭への給与量)を見ると、肥育前期では7.7kg、肥育中期では10.0kg、仕上げ期では9.8kgとなっている (表12)。

■1kgあたりの購入単価(全体)は、①肥育前期で50.1円、②肥育中期で48.7円、③仕上げ期で49.0円である。昨年度は、①肥育前期で50.7円、②肥育中期で49.3円、③仕上げ期で49.6円であり、輸入飼料の価格が落ち着いていることもあり、前年並みで推移した。

表 12 飼料の給与状況 (全体)

		1日あたり、 1頭への飼料給与量 (kg)	飼料給与量のうち、 購入飼料量 (kg)	購入飼料の 1kgあたりの単価 (円)
肥育牛	①肥育前期 (6~16ヶ月)	7.7	7.4	50.1
	②肥育中期 (16~23ヶ月)	10.0	9.7	48.7
	③肥育仕上げ期 (23~30ヶ月)	9.8	9.5	49.0
繁殖雌牛	①肥育段階 (8ヶ月齢)	5.2	4.3	57.0
	②成牛段階 (14ヶ月齢)	4.9	3.6	52.8

■肥育牛の給与状況（1日あたりの1頭への給与量）を品種別に見ると、黒毛和種は、肥育前期では7.4kg、肥育中期では9.8kg、仕上げ期では9.6kgとなっている。交雑種は、肥育前期では8.2kg、肥育中期では10.4kg、仕上げ期では10.2kgとなっている。乳用種は、肥育前期では8.9kg、肥育中期では10.6kg、仕上げ期では10.9kgとなっている。（表13）。

■1kgあたりの購入単価は、黒毛和種と交雑種・乳用種を比較すると、黒毛和種の飼料はやや高めである。

表13 飼料の給与状況（品種別）

		1日あたり、 1頭への飼料給与量 (kg)	飼料給与量のうち、 購入飼料量 (kg)	購入飼料の 1kgあたりの単価 (円)
肥育牛・ 黒毛和種	①肥育前期（6～16ヶ月）	7.4	7.1	50.7
	②肥育中期（16～23ヶ月）	9.8	9.6	49.1
	③肥育仕上げ期（23～30ヶ月）	9.6	9.4	49.2
		1日あたり、 1頭への飼料給与量 (kg)	飼料給与量のうち、 購入飼料量 (kg)	購入飼料の 1kgあたりの単価 (円)
肥育牛・ 交雑種	①肥育前期（6～16ヶ月）	8.2	7.9	48.7
	②肥育中期（16～23ヶ月）	10.4	10.1	47.2
	③肥育仕上げ期（23～30ヶ月）	10.2	9.8	47.5
		1日あたり、 1頭への飼料給与量 (kg)	飼料給与量のうち、 購入飼料量 (kg)	購入飼料の 1kgあたりの単価 (円)
肥育牛・ 乳用種	①肥育前期（6～16ヶ月）	8.9	8.5	47.8
	②肥育中期（16～23ヶ月）	10.6	10.2	47.0
	③肥育仕上げ期（23～30ヶ月）	10.9	10.4	47.5

7 敷料の使用状況

■敷料の使用状況は、「おが粉」の使用率が圧倒的に高く、200頭以上の経営体で87.2%の使用率となっている（図21）。

図 21 敷料の使用状況（複数回答）

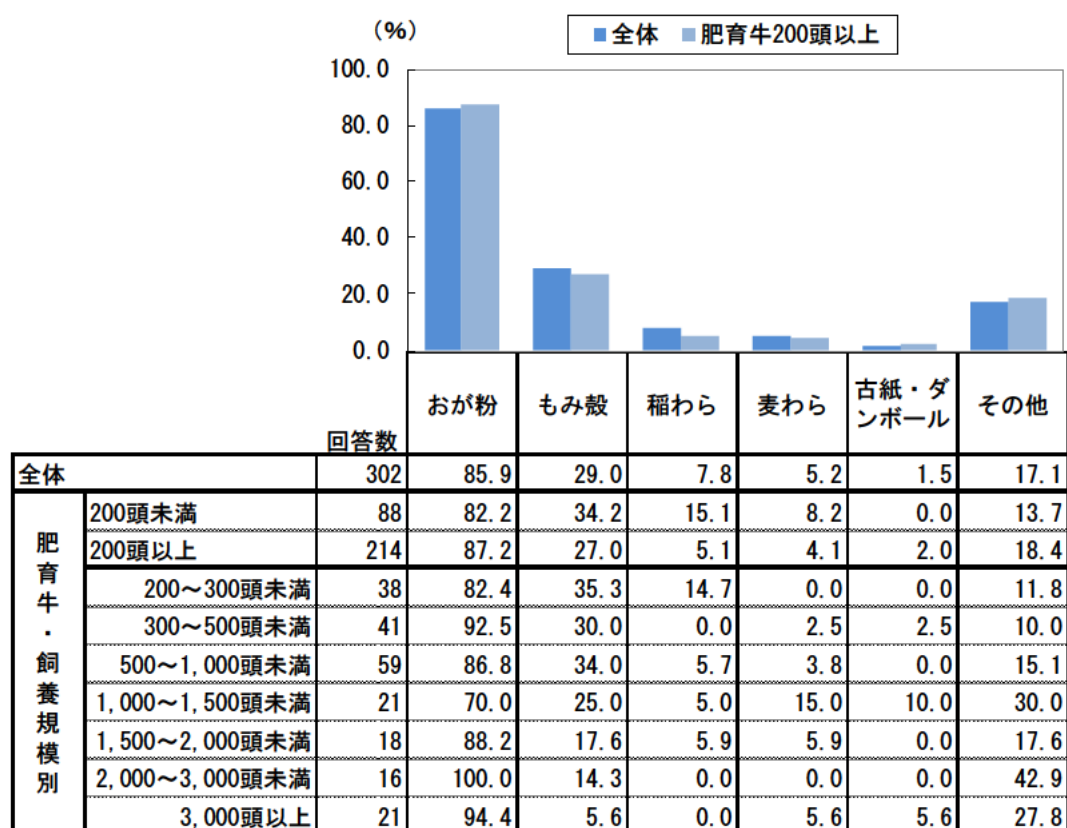


表 14 敷料の量、単価

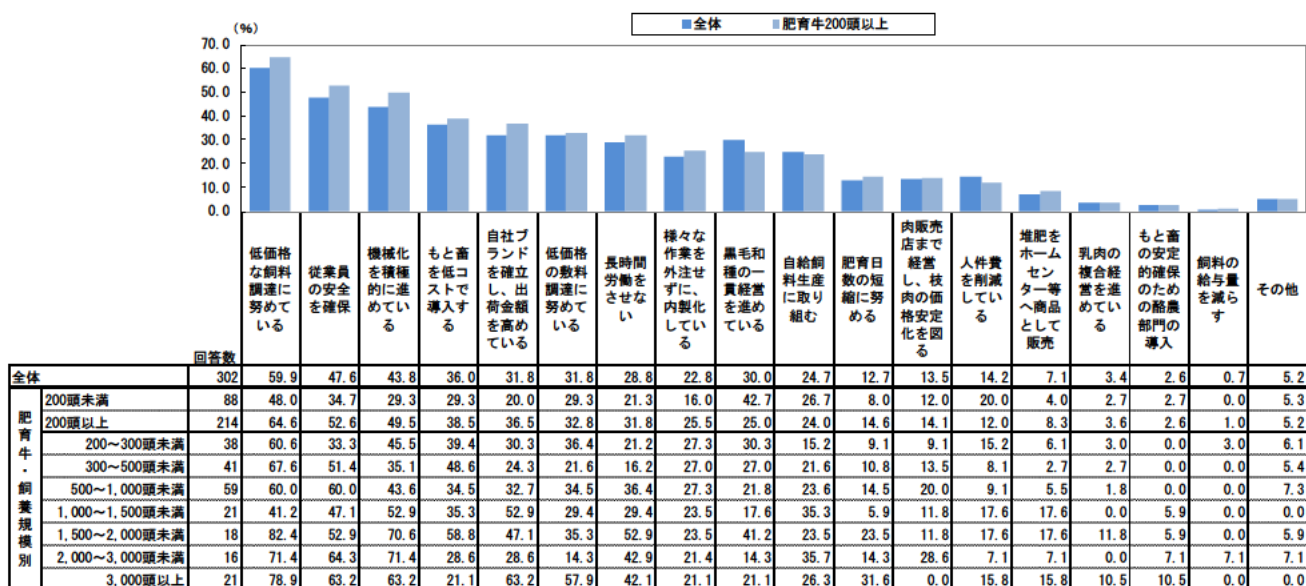
		1日あたり、1頭への敷料の量 (㎡)	敷料の1㎡あたりの単価 (円)
肥育牛	①肥育前期 (6～16ヶ月)	1.0	2,239
	②肥育中期 (16～23ヶ月)	1.1	2,304
	③肥育仕上げ期 (23～30ヶ月)	1.1	2,335
繁殖雌牛	①肥育段階 (8ヶ月齢)	1.3	1,815
	②成牛段階 (14ヶ月齢)	1.3	1,665

8 経営に関する取り組み

(1) 現在行っている経営努力

■200頭以上の経営体が現在行っている経営努力は、「低価格な飼料調達に努めている(64.6%)」「従業員の安全を確保(52.6%)」「機械化を積極的に進めている(49.5%)」「もと畜を低コストで導入する(38.5%)」「自社ブランドを確立し、出荷金額を高めている(36.5%)」「低価格の敷料調達に努めている(32.8%)」等が多い。生産コストにおいて占める割合の高い、もと畜費や飼料費の抑制、機械化による効率化といった対応策が目立っている(図22)。

図22 現在行っている経営努力(複数回答)



■昨年度と比較すると、昨今の人材不足や働き方を見直す動きの影響からか、「従業員の安全を確保」が40.0%から52.6%と伸びている(表15)。

表15 経営努力

昨年度	今年度
「低価格な飼料調達に努めている(65.3%)」	「低価格な飼料調達に努めている(64.6%)」
「従業員の安全を確保(40.0%)」	「従業員の安全を確保(52.6%)」
「機械化を積極的に進めている(56.0%)」	「機械化を積極的に進めている(49.5%)」
「もと畜を低コストで導入する(42.0%)」	「もと畜を低コストで導入する(38.5%)」
「自社ブランドを確立し、出荷金額を高めている(36.0%)」	「自社ブランドを確立し、出荷金額を高めている(36.5%)」
「低価格の敷料調達に努めている(36.0%)」	「低価格の敷料調達に努めている(32.8%)」

- また、経営課題やリスクに対する経営努力について見ると、①生産基盤の拡充という視点では、「黒毛和種の一貫経営」「自給飼料生産」が取り組みとして目立っている。「乳肉の複合経営」は、乳用種の確保の難しさ、肉用牛よりも過酷な労働環境、相応の設備投資などがハードルとなっているため、取り組んでいる割合は3.6%と低い。
- ②価格変動への対応という視点では、「もと畜の低コスト導入」「黒毛和種の一貫経営」といった取り組みによる経営基盤の強化で対応しようという様子が見える。
- ③労働力の確保という視点では、従業員の安全確保は、人材採用や定着率向上にもリンクするということから、各経営体ともに積極的に取り組んでいる。
- ④肥育期間の短縮化という視点では、「肥育日数の短縮に努める」が14.6%にとどまり、積極的に取り組んでいる経営体は少ない。

表 16 経営課題やリスクに対する経営努力

経営課題やリスク	現在行っている経営努力 (200 頭以上)
①生産基盤の拡充	黒毛和種の一貫経営を進めている (25.0%) 自給飼料生産に取り組む (24.0%) 乳肉の複合経営を進めている (3.6%)
②価格変動への対応	もと畜を低コストで導入する (38.5%) 黒毛和種の一貫経営を進めている (25.0%)
③労働力の確保	従業員の安全を確保 (52.6%)
④肥育期間の短縮化	肥育日数の短縮に努める (14.6%)

図 23 現在行っている経営努力 (黒毛和種、複数回答)

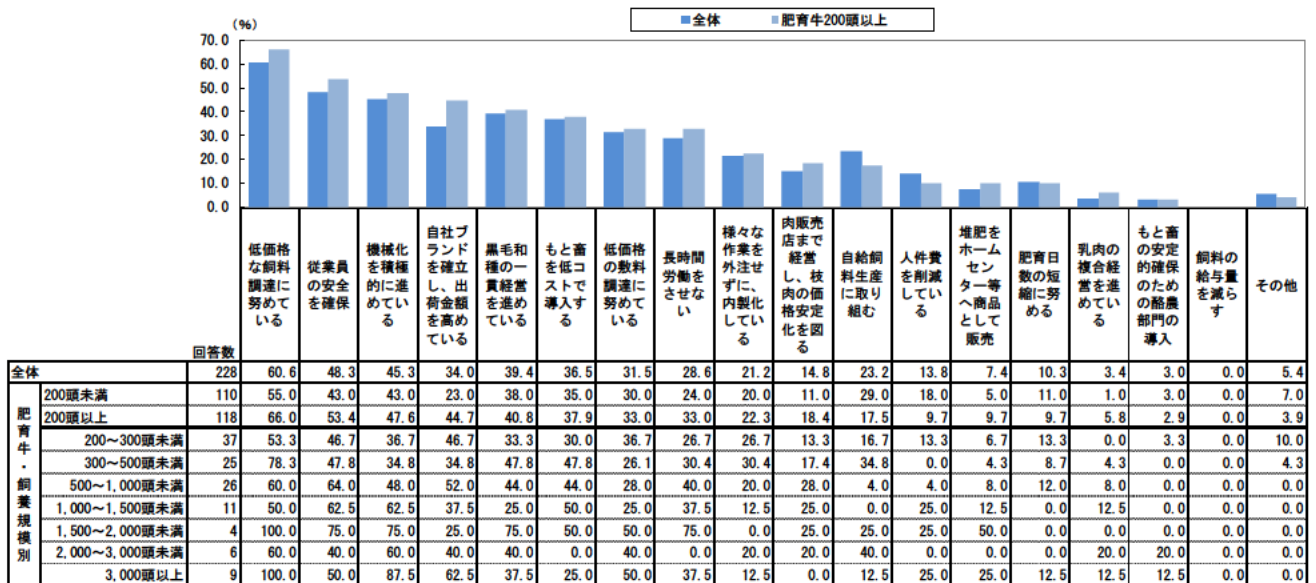


図 24 現在行っている経営努力 (交雑種、複数回答)

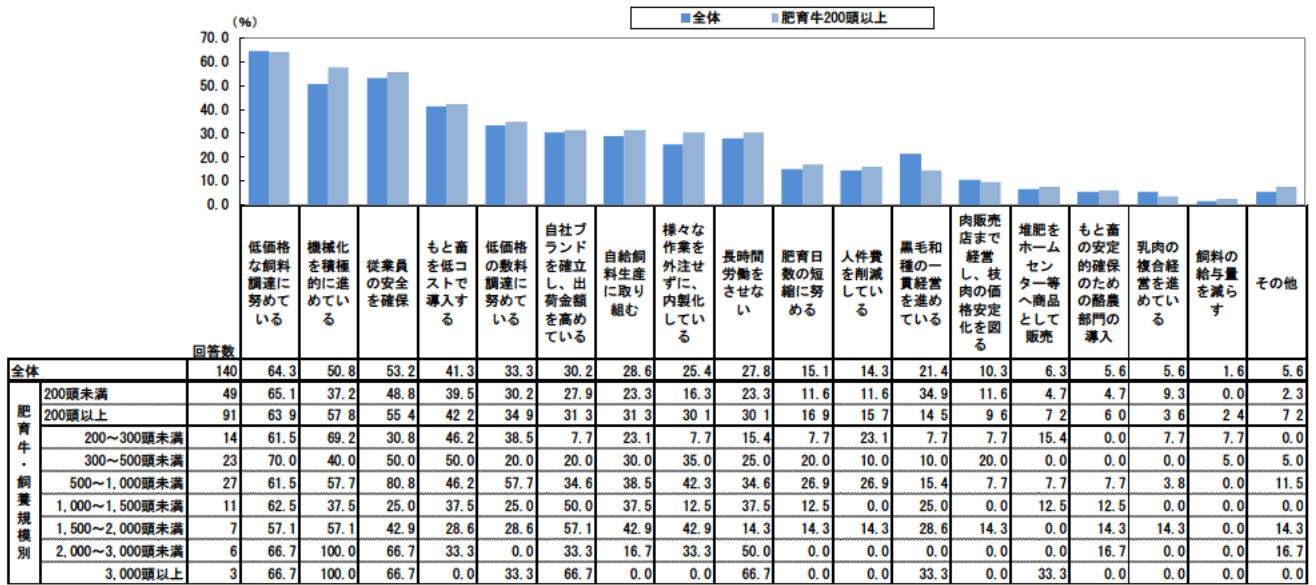
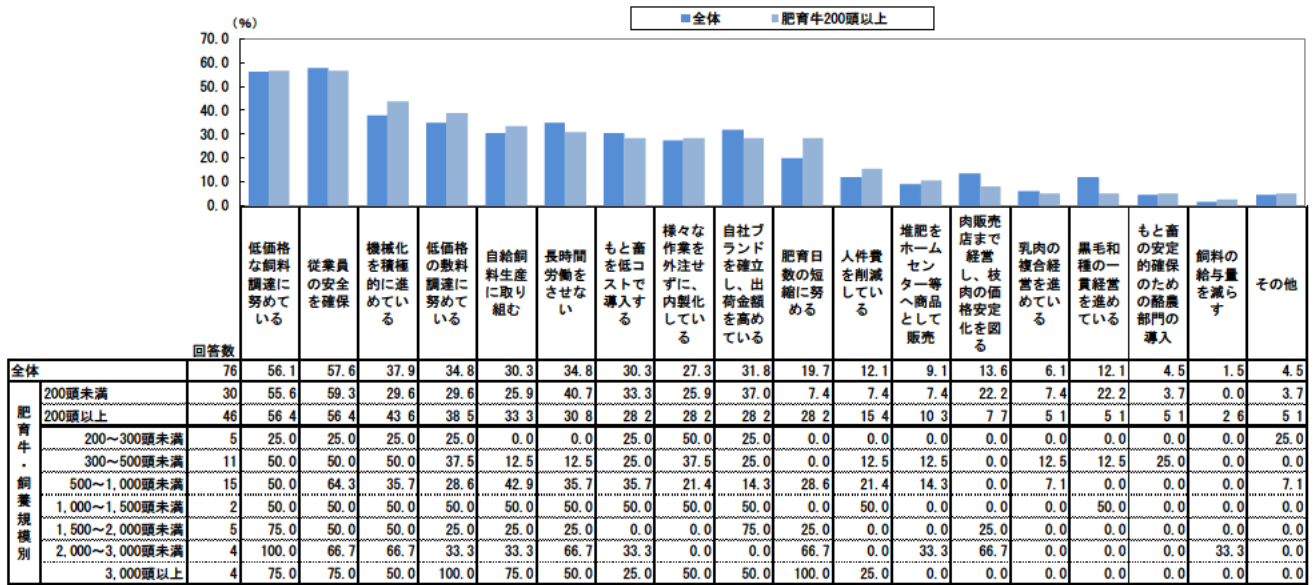


図 25 現在行っている経営努力 (乳用種、複数回答)



(2) 今後3年間の経営展開の方向性

■今後3年間の経営展開については、「現状維持」が最も多く、200頭以上の経営体では、55.4%を占める。一方、「増頭」する経営体は37.4%を占めており、昨年度の30.6%と比較すると、6.8%増加している(図26)。200頭以上の経営体で品種別に見ると、他の品種に比べ、黒毛和種の「増頭」意向が46.2%と多くなっている(図27~29)。

図26 今後3年間の経営展開の方向性(全体)

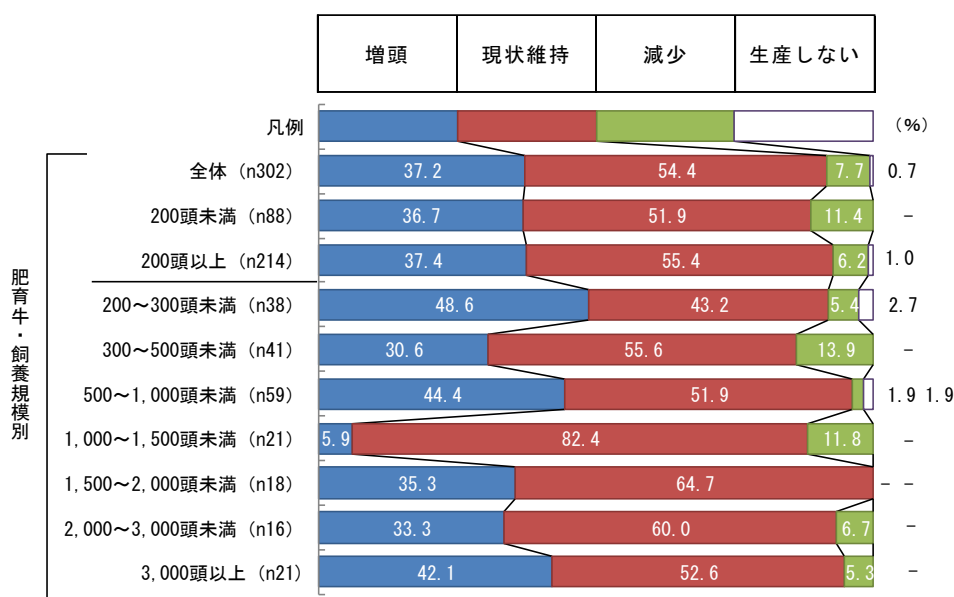


図27 今後3年間の経営展開の方向性(黒毛和種)

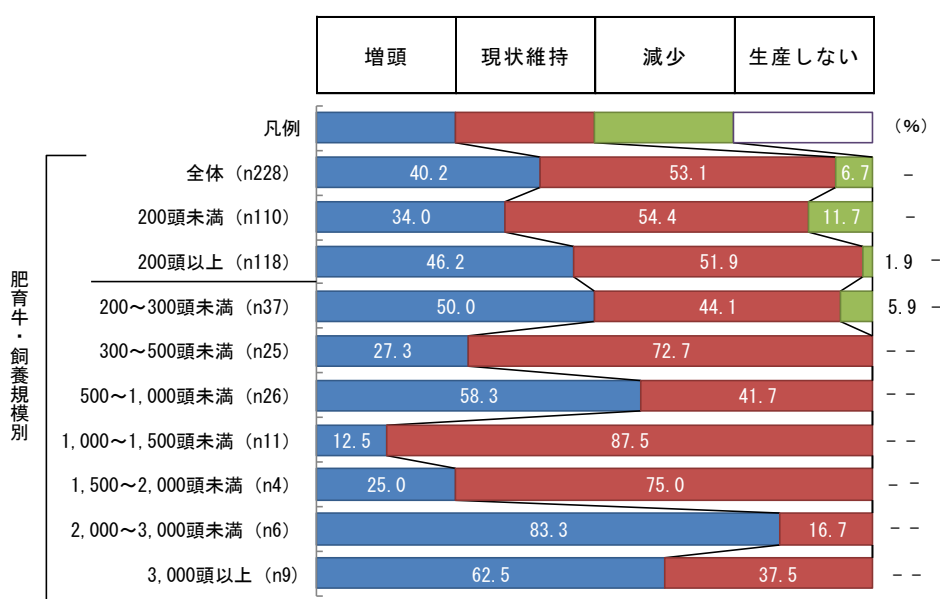


図 28 今後3年間の経営展開の方向性（交雑種）

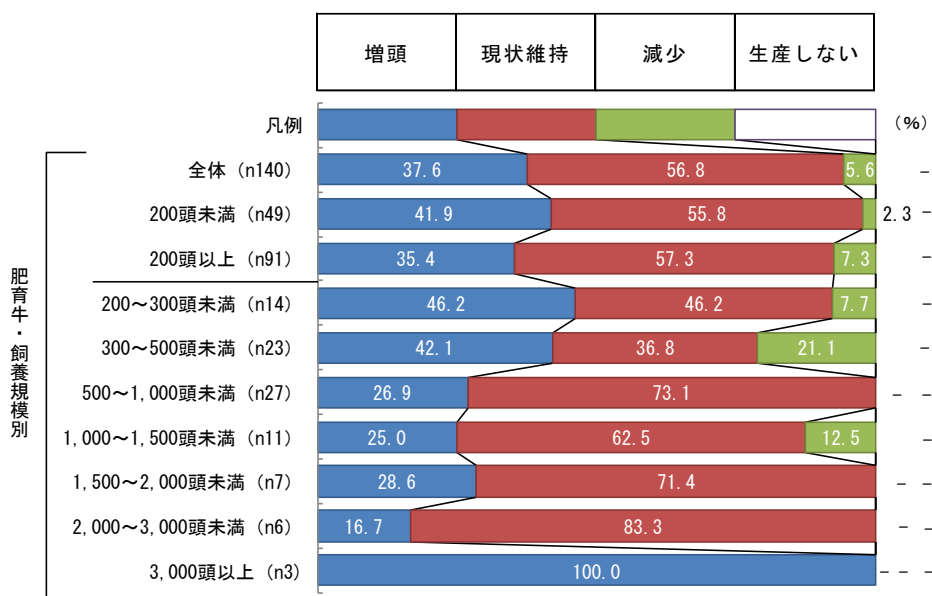
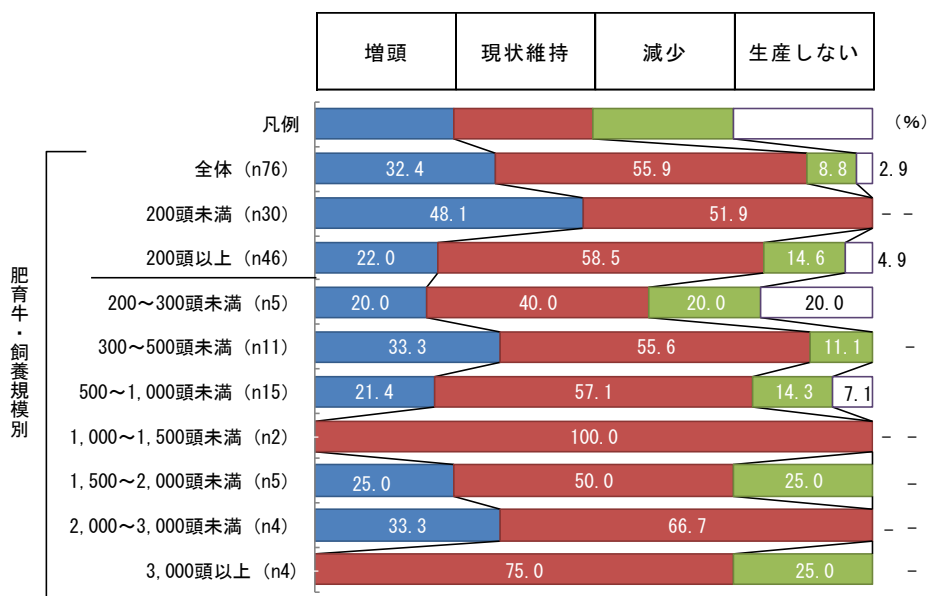


図 29 今後3年間の経営展開の方向性（乳用種）



■増頭する理由は、全体で「売上高を増加させるため」が63.9%と最も多く、次いで、「出荷先があるため」が41.2%となっている（図30）。

図30 増頭の理由（全体）

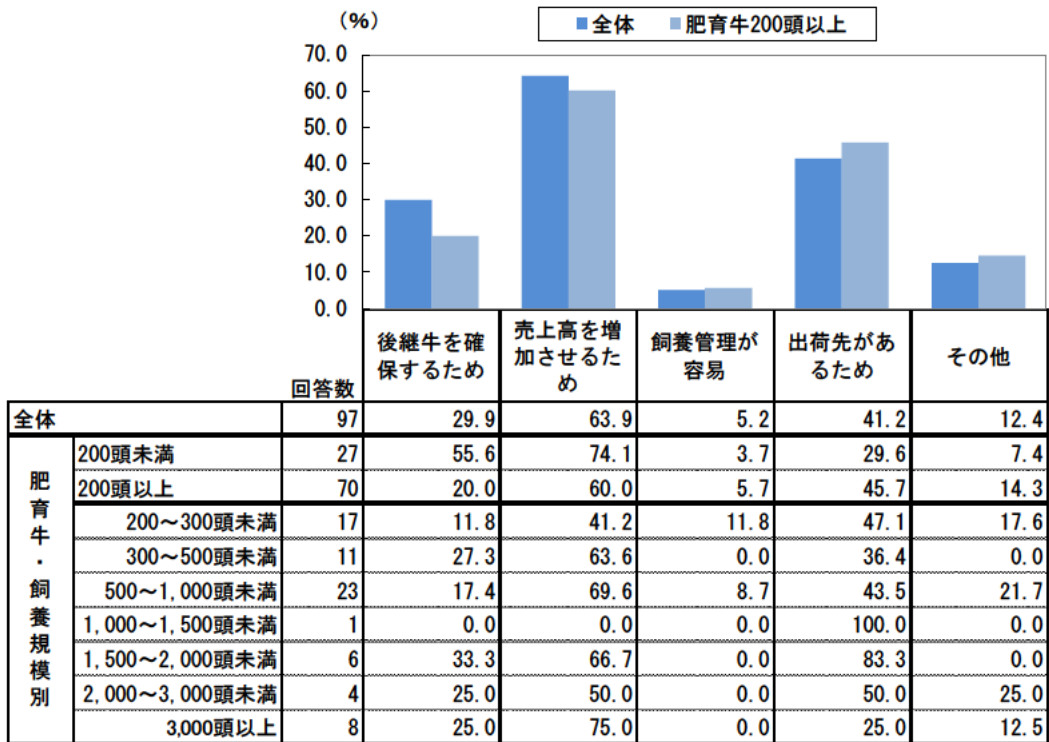
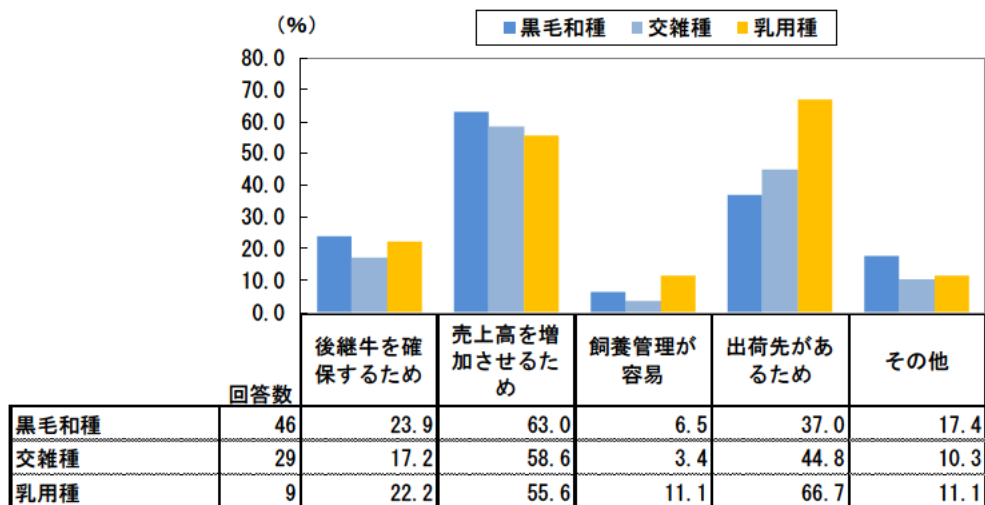


図31 増頭の理由（品種別）



※200頭以上

■規模拡大を実現するためには、200 頭以上の経営体では、「子牛の導入価格・販売価格の動向 (59.7%)」「資金繰り (52.8%)」「肥育牛の販売価格の動向 (51.4%)」「施設・機械の更新・拡大 (50.0%)」「後継者・人材確保、育成 (41.7%)」等の課題がある (図 32)。

図 32 規模拡大を実現するための課題 (全体)

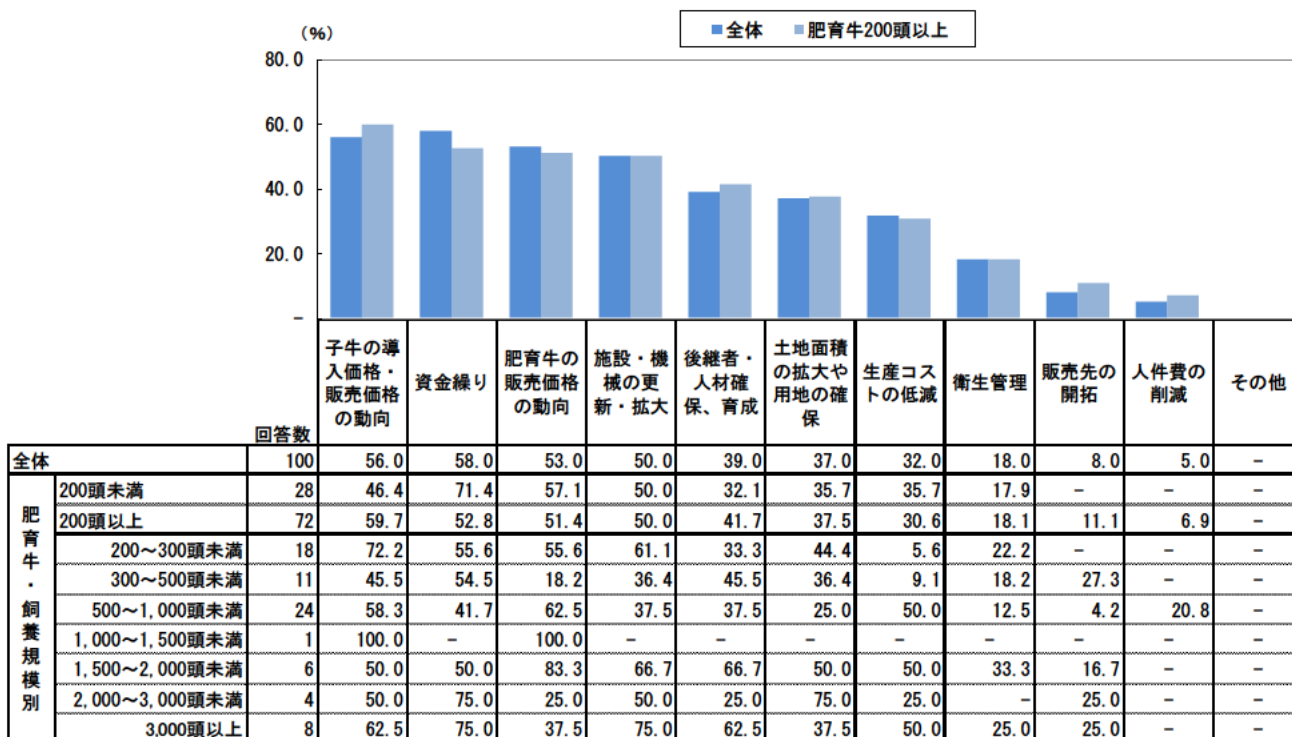
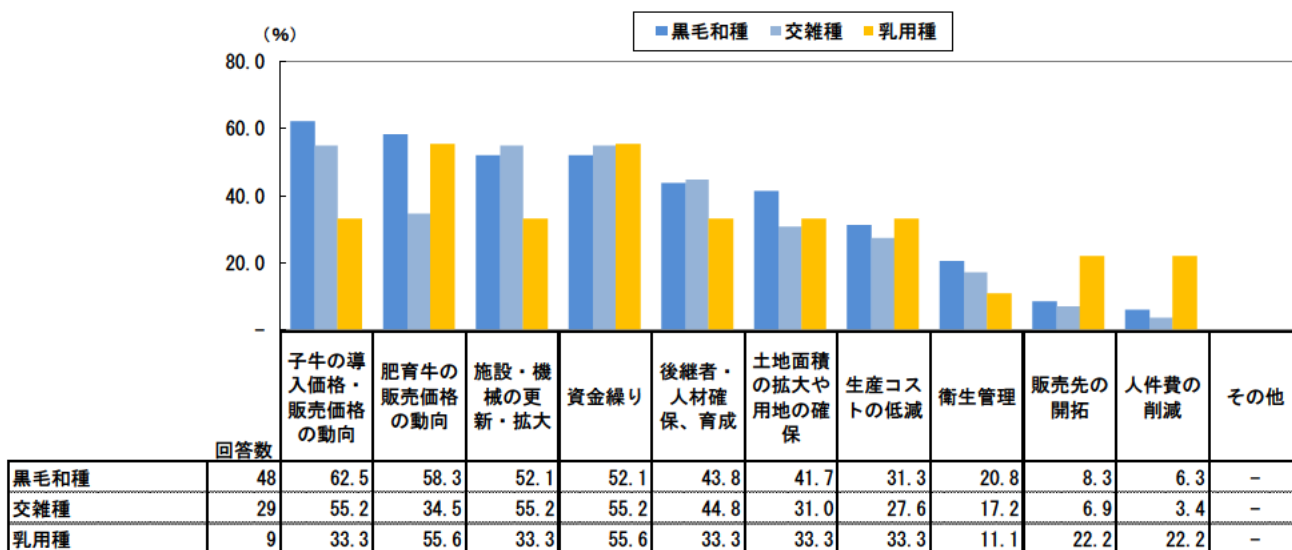


図 33 規模拡大を実現するための課題 (品種別)



※200頭以上

■今後3年間の経営規模について、200頭以上の経営体における、「現状維持（55.4%）」「減少する（6.2%）」「生産しない（1.0%）」（図26）の回答理由は、「もと牛価格の高騰」が圧倒的に多く、60%以上を占めている（図34）。

図34 現状維持、または減少する理由（全体）

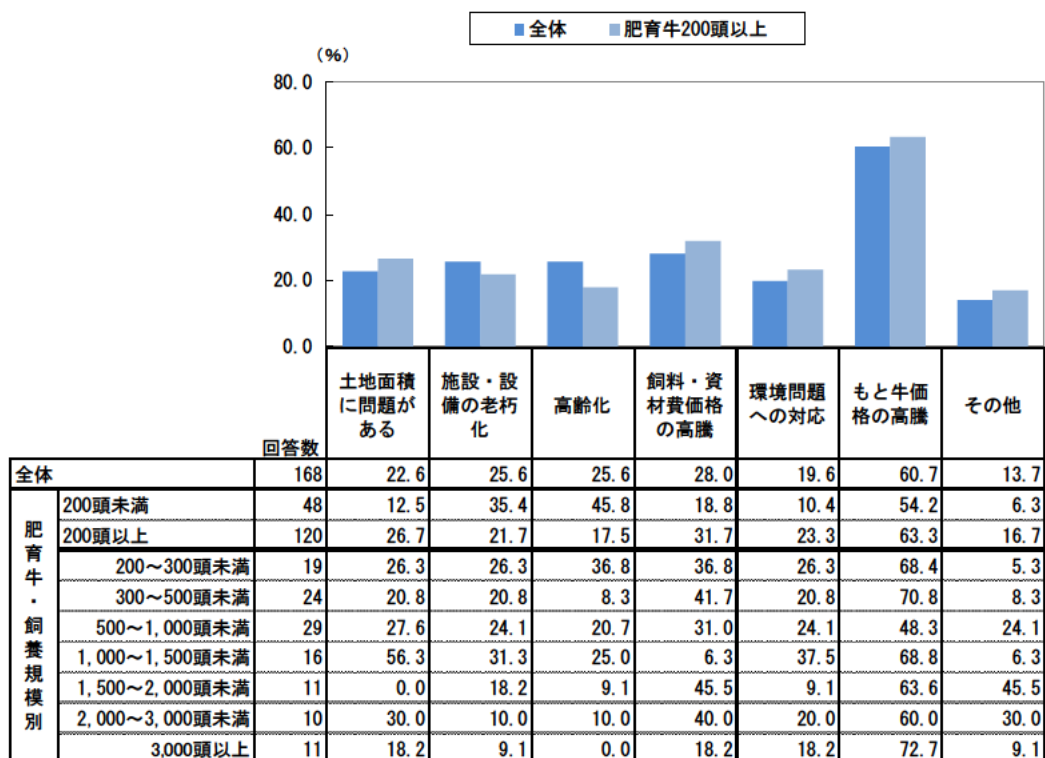
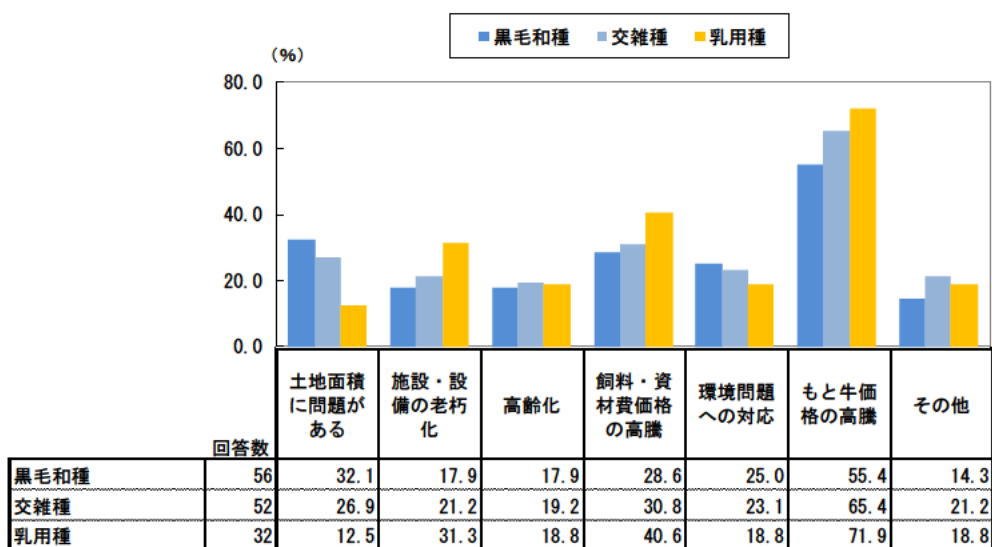


図35 現状維持、または減少する理由（品種別）



※200頭以上